

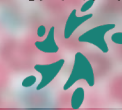
生物文化多様性の視点で ウェルビーイングな社会をつくる

独立行政法人環境再生保全機構-生物多様性に関する講演会- 2026.3.18

横浜国立大学 総合学術高等研究院/教育学部

倉田薫子(生物多様性保全, 生物多様性に関わる環境教育)

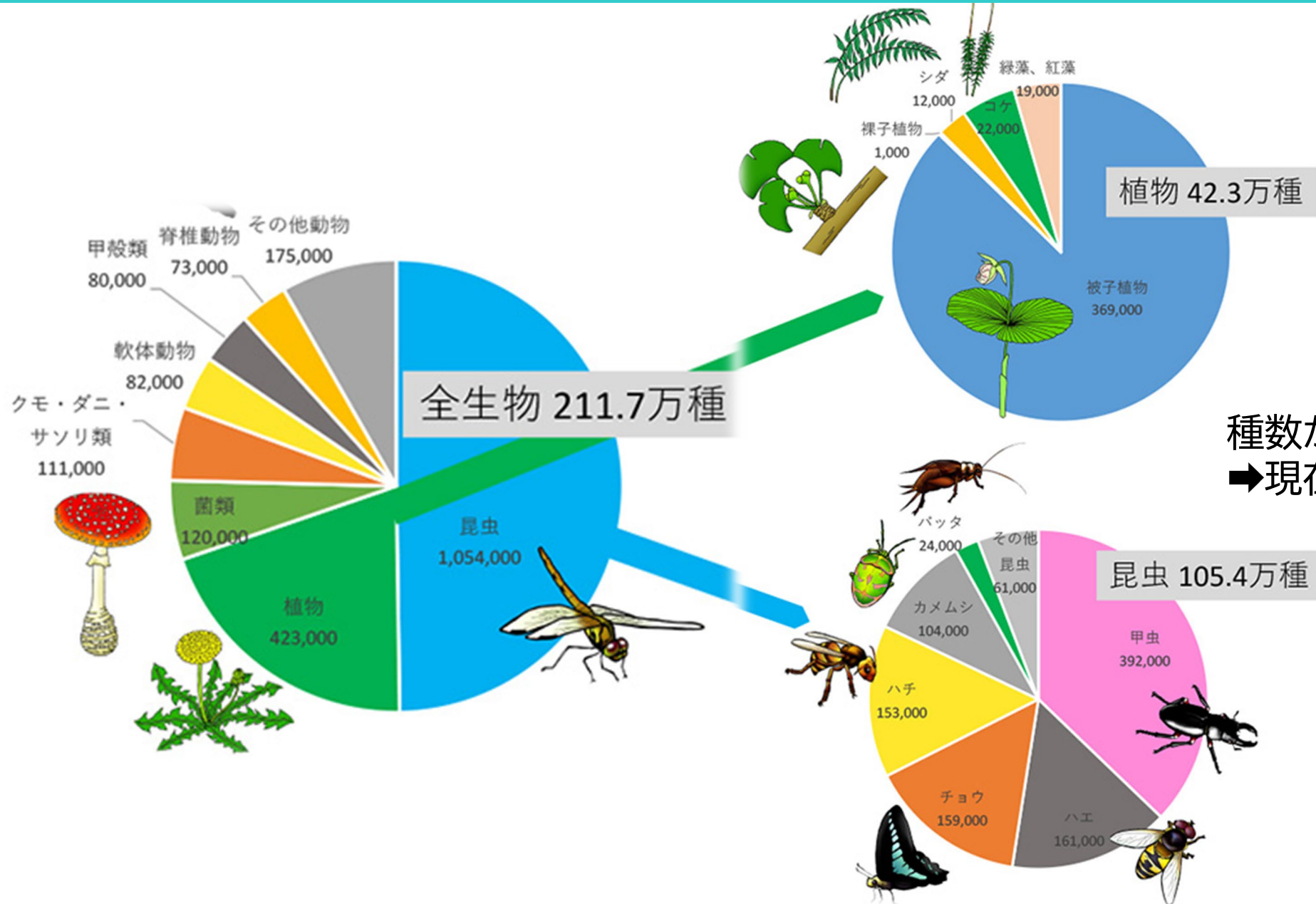
YNU **OSD**
横浜国立大学 **BASE**

 総合学術高等研究院

持続不可能性

～生物多様性への理解が 人類が唯一生き残る術～

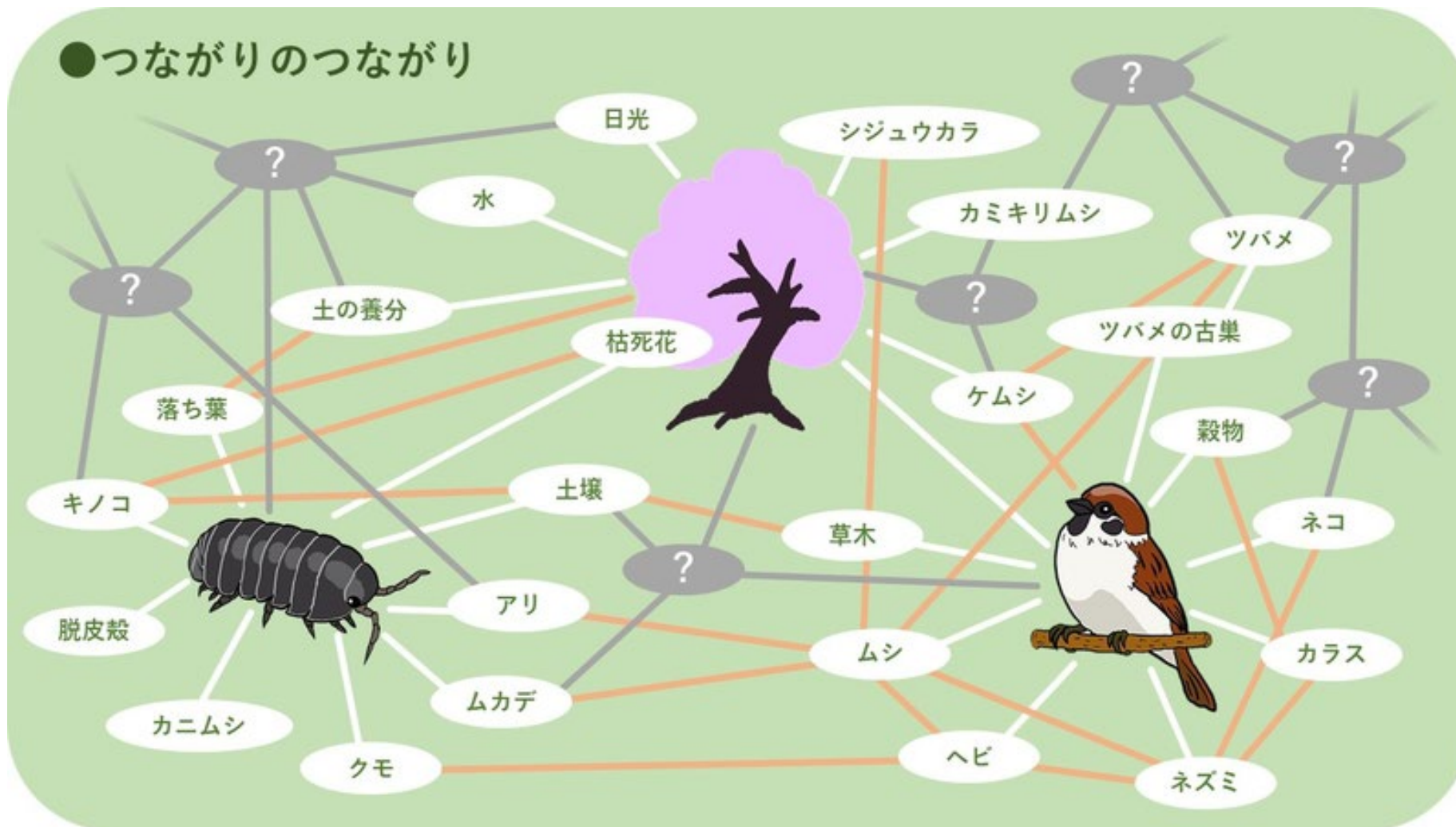
地球上で認識されている生物の種数



種数が多い = 繁栄している
➡ 現在の環境に合っている

生きものは、つながりの中で生きている

イラスト:日本未来科学館HPより引用

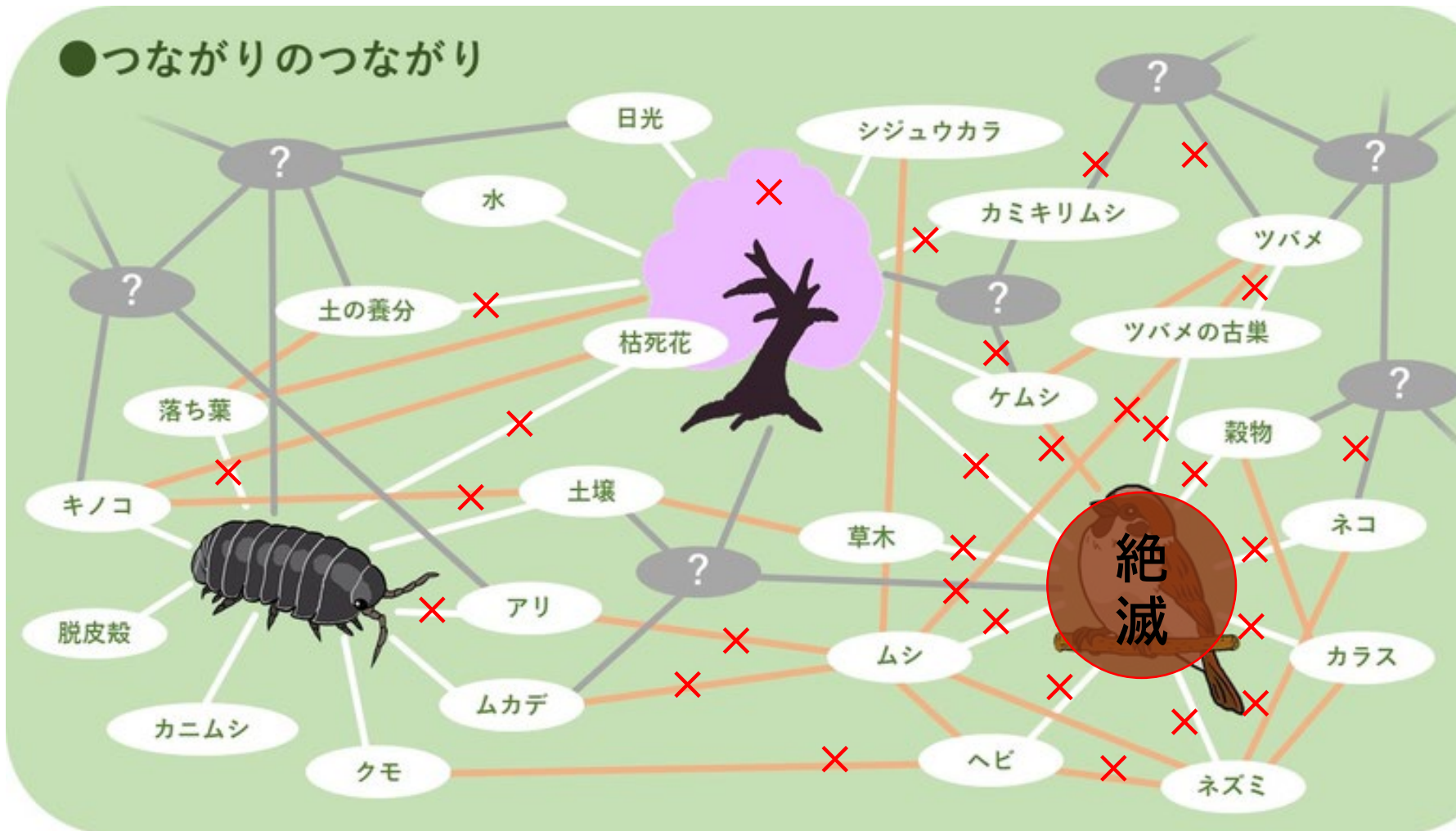


たくさんの生き物が直接的・間接的に
「複雑に・強く」つながりをもっていること

= 生物多様性

ある生物が絶滅すると

近くの“つながり”がとぎれるだけでなく
全体の“つながり”に影響がでる



スズメが絶滅危惧種に？ 里山の鳥、
チョウが急速に減少

2024/10/1 17:40 (最終更新 10/1 18:52)

🔖 保存

🗖️ 📘 📺



気が付けば、
“そしてだれもいなくなった”...

環境省と日本自然保護協会は1日、国ぐるみで
植物の状況を定点観測した結果、里山に生息する
鳥類の15%、チョウ類の33%で個体数が年3・5%
以上のペースで減っているとの報告書を公表し
た。この減少ペースが長期間続けば、スズメなど
の身近な鳥やチョウが環境省レッドリストの絶滅
危惧種の判定基準を満たす可能性があるという。

生物多様性はなぜ大事なのか

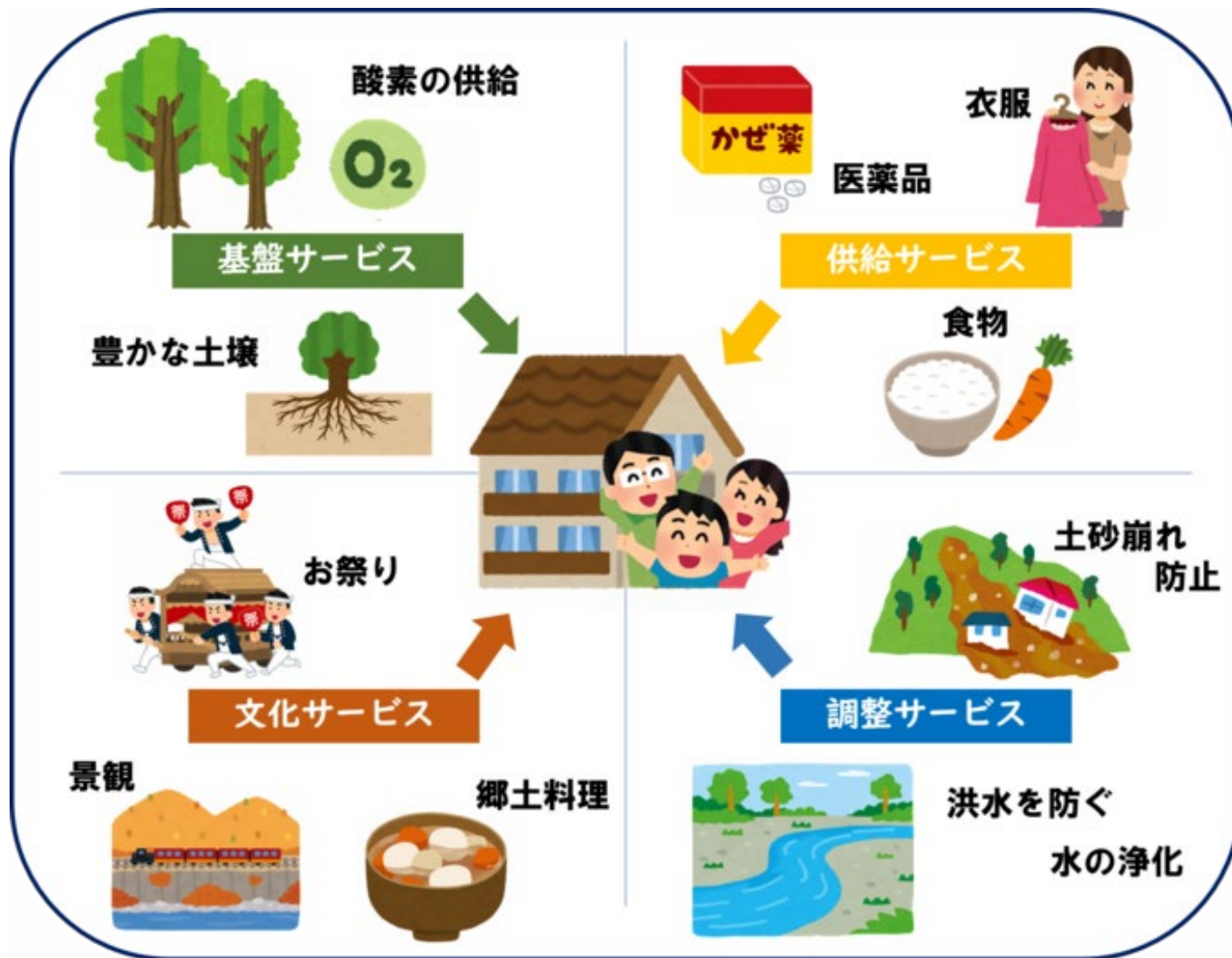
【生態系サービス】

- ・基盤サービス
- ・供給サービス
- ・調整サービス
- ・文化サービス

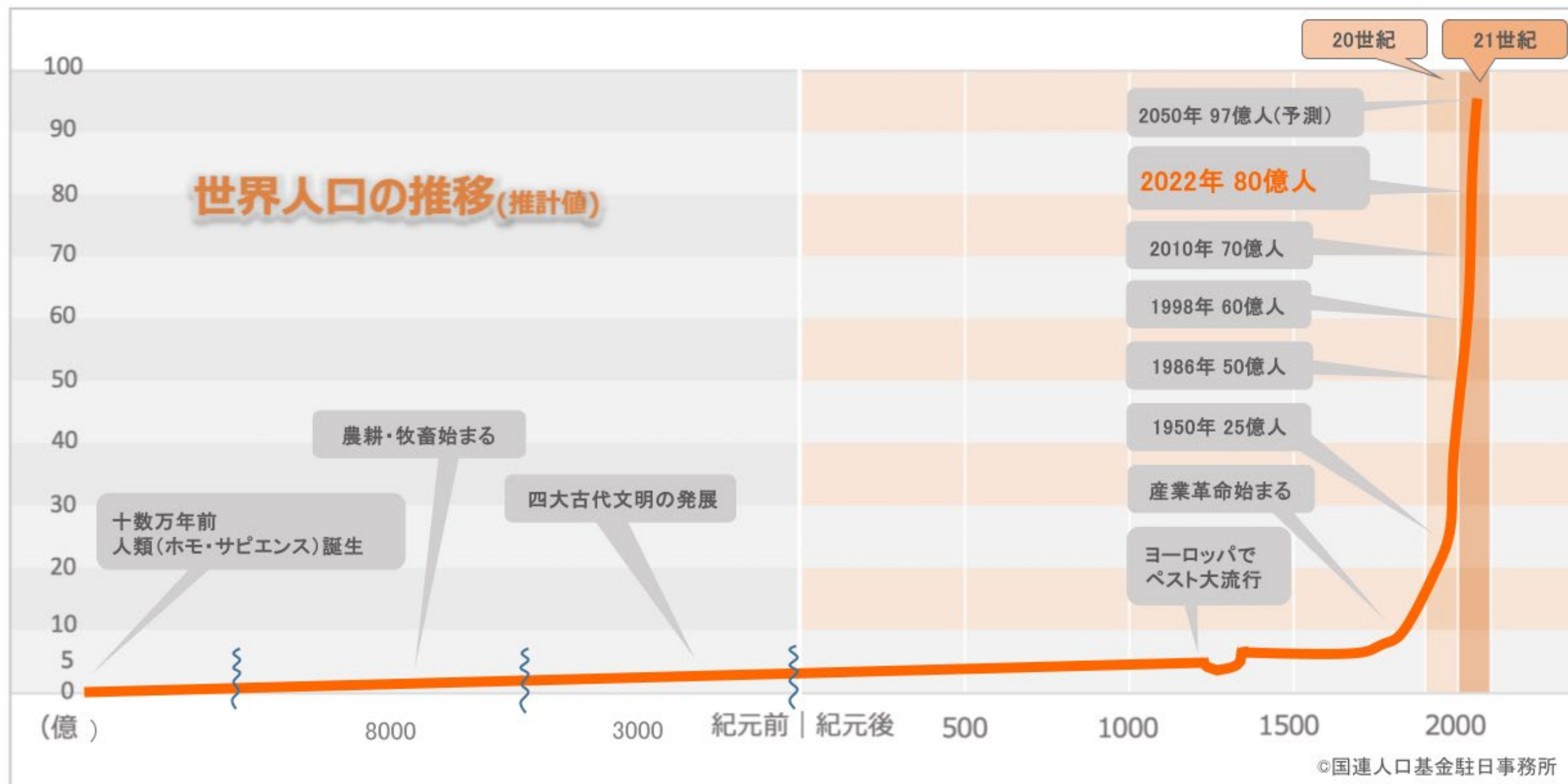
【私たちの生活への具体的な影響】

- ・災害の増加と激化
- ・食料不足と品質の低下
- ・感染症のリスク増加
- ・医薬品の供給減少
- ・経済的損失

➡人間社会の持続可能性が低下



世界人口の推移

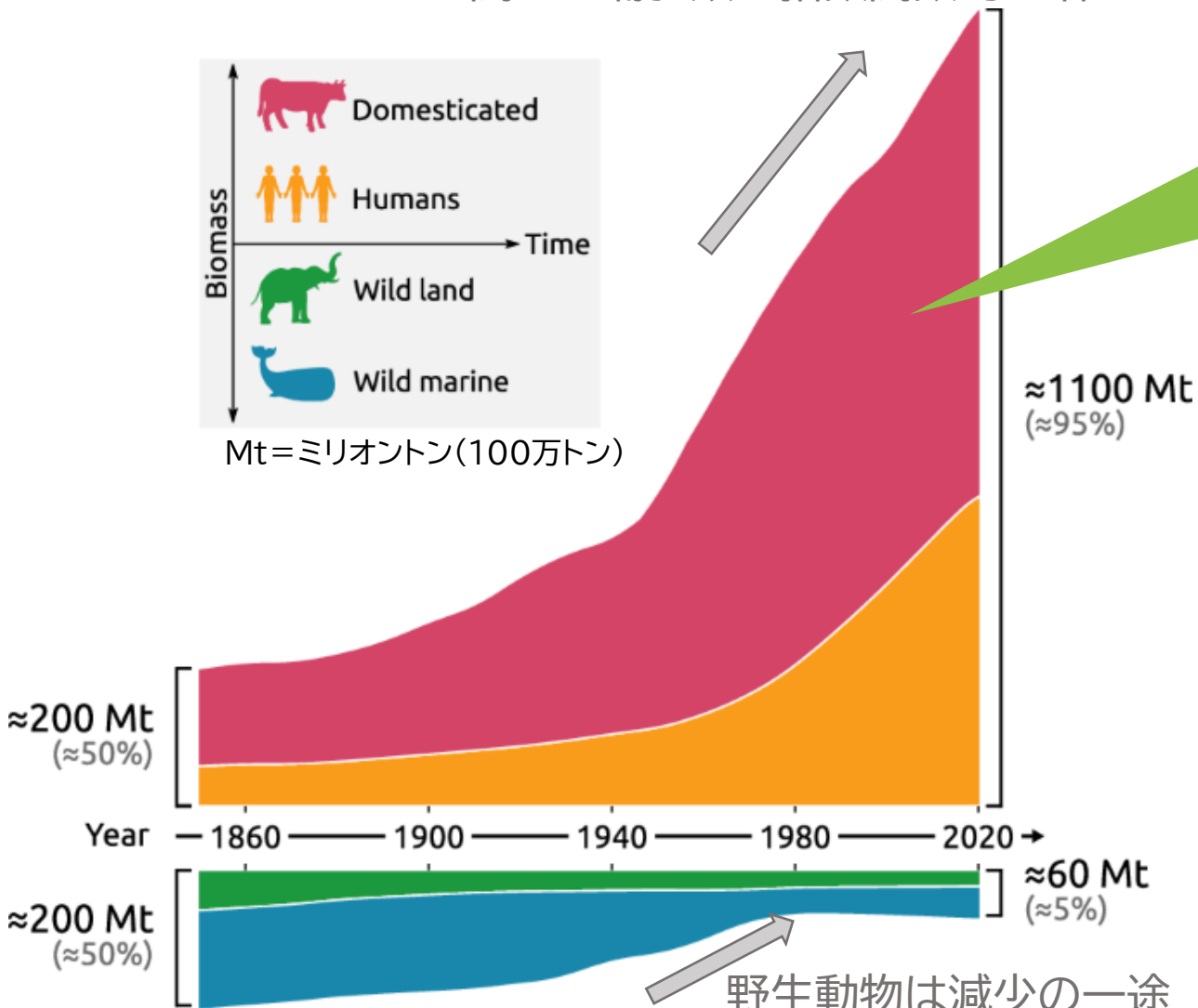


出典:国連人口基金駐日事務所

ヒトはどれほど台頭しているか？

1850年からの哺乳類のバイオマス推移

ヒトに関わる哺乳類は指数関数的に増え



家畜から放出されるメタン；
二酸化炭素の28倍の温室効果
年間約20億トン(温室効果ガスの約5%相当)

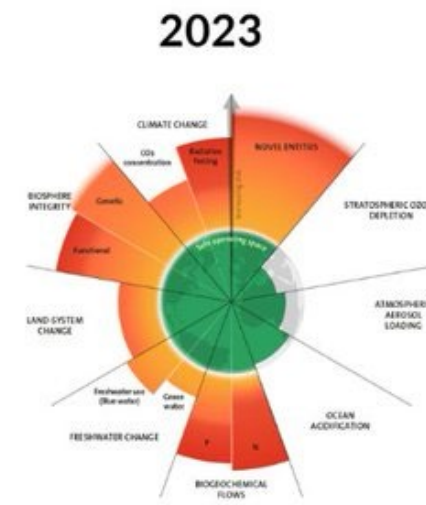
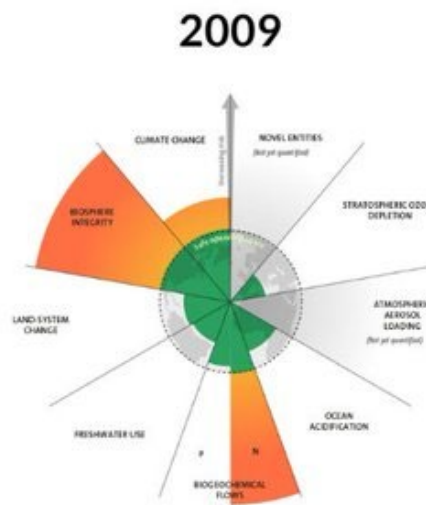
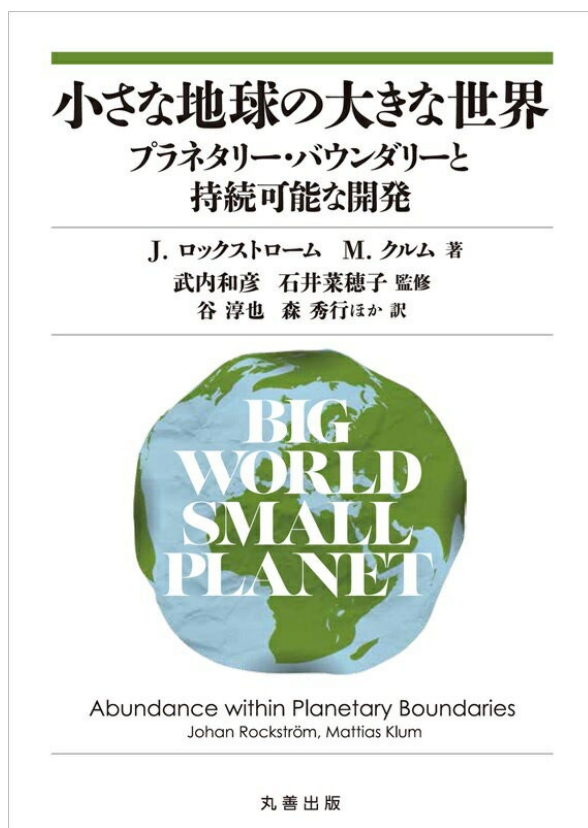
→人間の増加, 過度な肉食の推進が
温暖化に拍車をかけている

人の増加, それにともなって家畜も増加(+550%)
一方で, 野生生物のバイオマスは70%減少

家畜を飼育するための自然植生の開拓(過剰利用)
これだけバイオマスの推移があって,
環境に影響がないわけがない

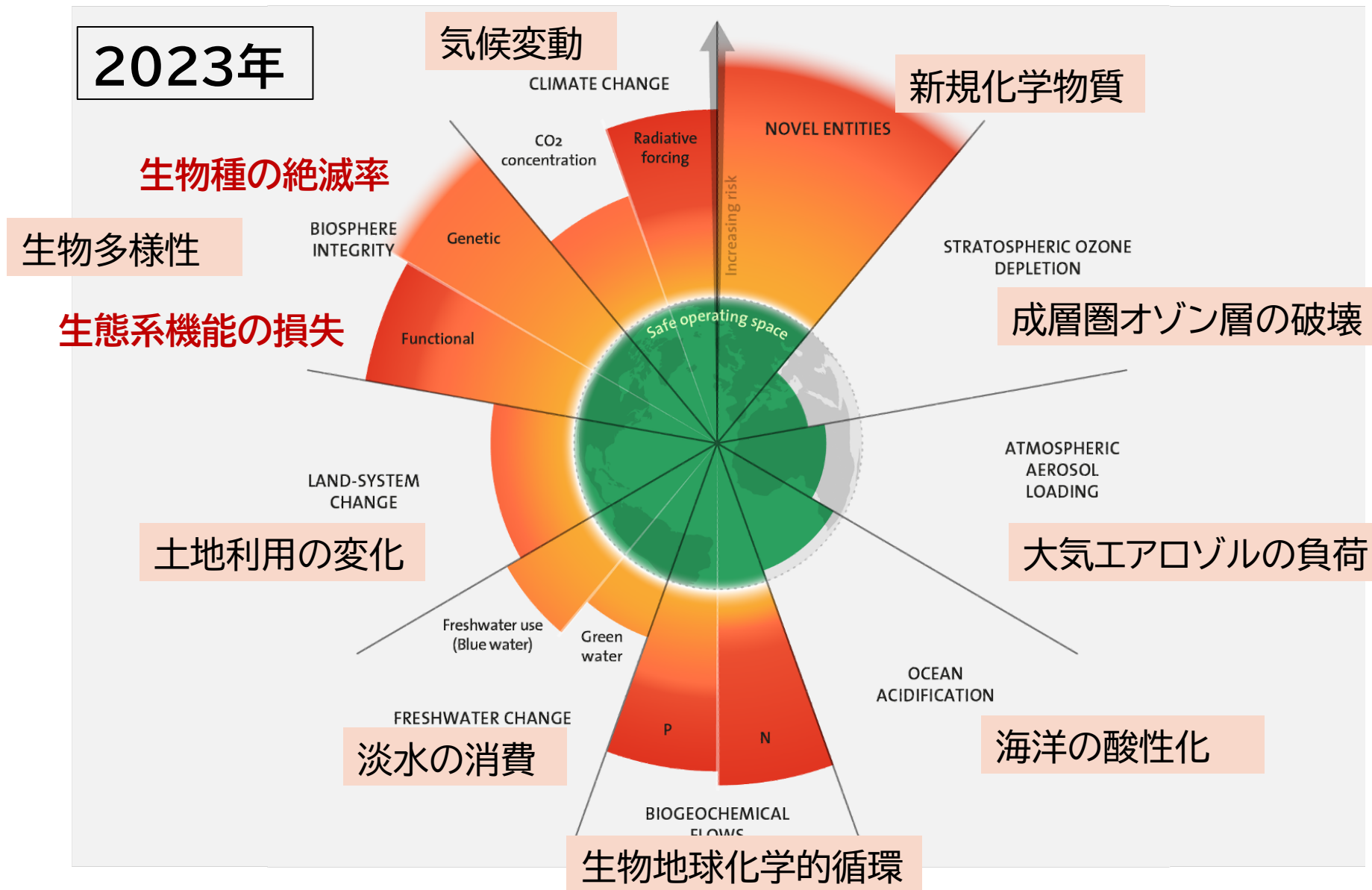
プラネタリーバウンダリー

「人類のための安全動作領域」を定義するように設計されたフレームワーク。真ん中の緑の中に入っていれば健康な状態(限界値未満)だが、オーバーしている領域は危険な状態(不確実性領域:リスクの増大)、赤を超えてしまうと**不可逆的で壊滅的な変化**を起こす。



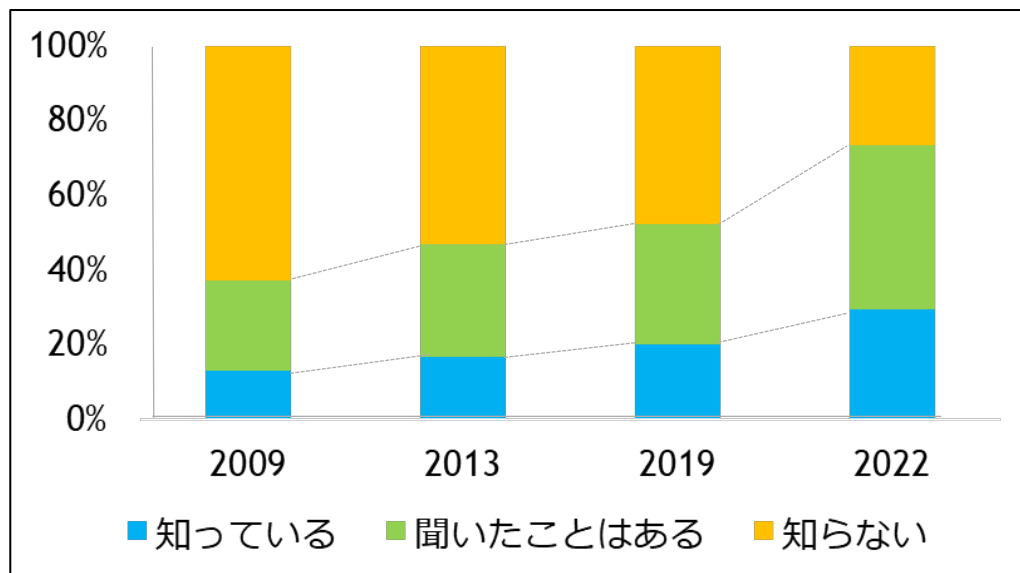
The evolution of the planetary boundaries framework. Licenced under CC BY-NC-ND 3.0 (Credit: Azote for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University. Based on Richardson et al. 2023, Steffen et al. 2015, and Rockström et al. 2009) Click on the image to download.

地球に“タダ乗り”する時代はすでに終わっている！



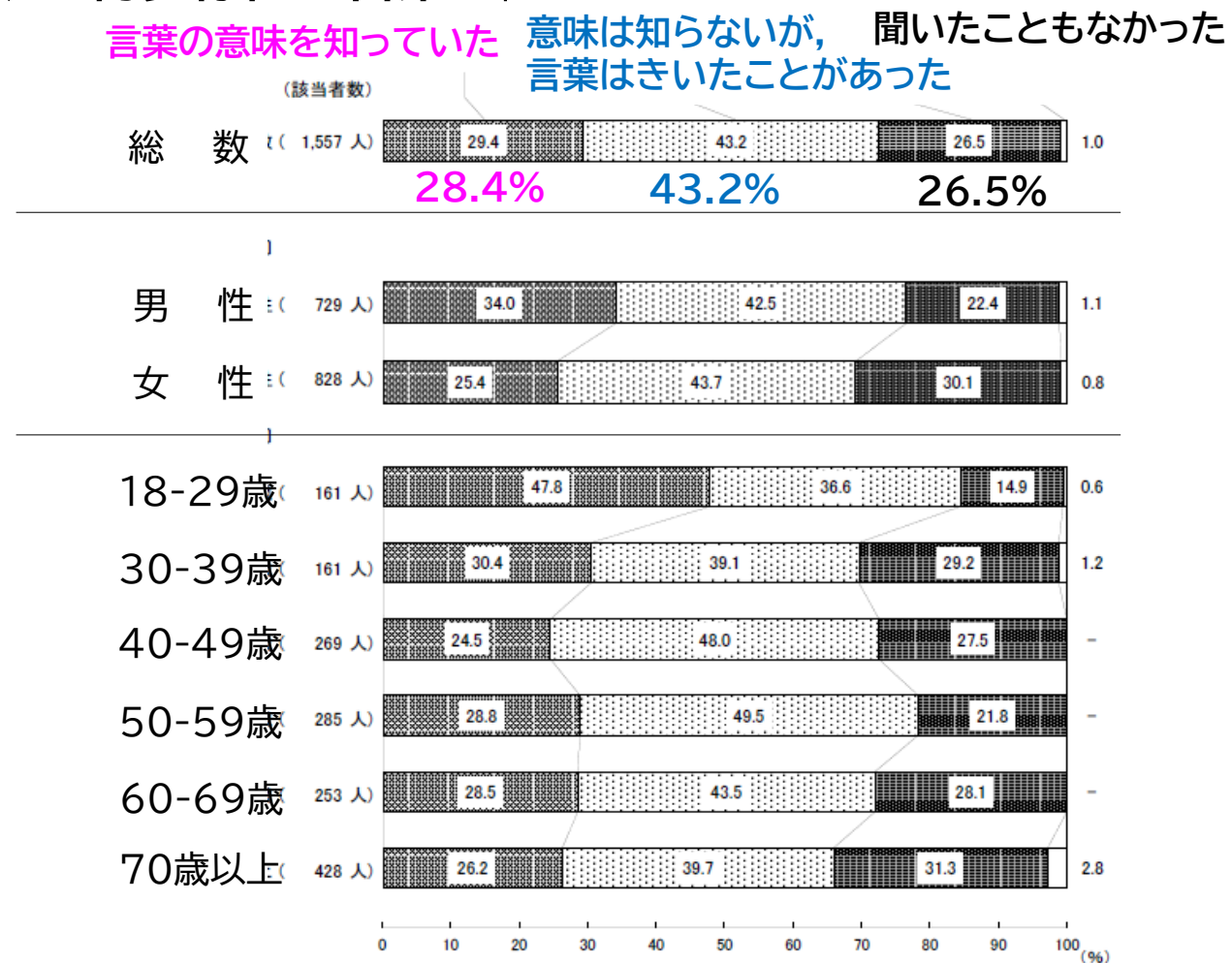
◆生物多様性の言葉の認知度

言葉の意味を知っていた (該当者数) 意味は知らないが、聞いたこともなかった言葉はきいたことがあった



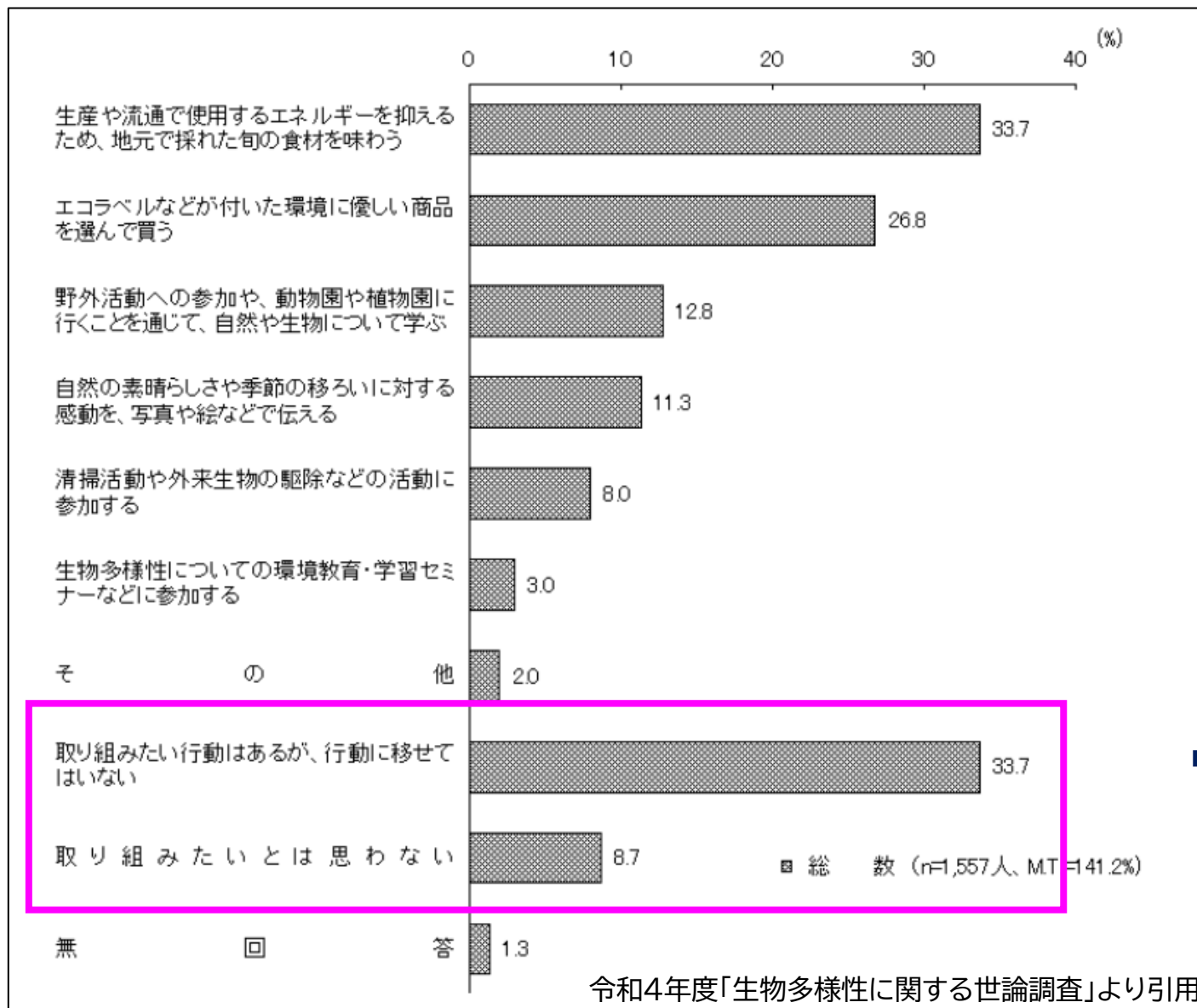
「生物多様性」の言葉の認知度の推移。
内閣府世論調査報告書より作成。

徐々に認知度は向上
年代に応じて認知度が異なる



令和4年度「生物多様性に関する世論調査」より引用

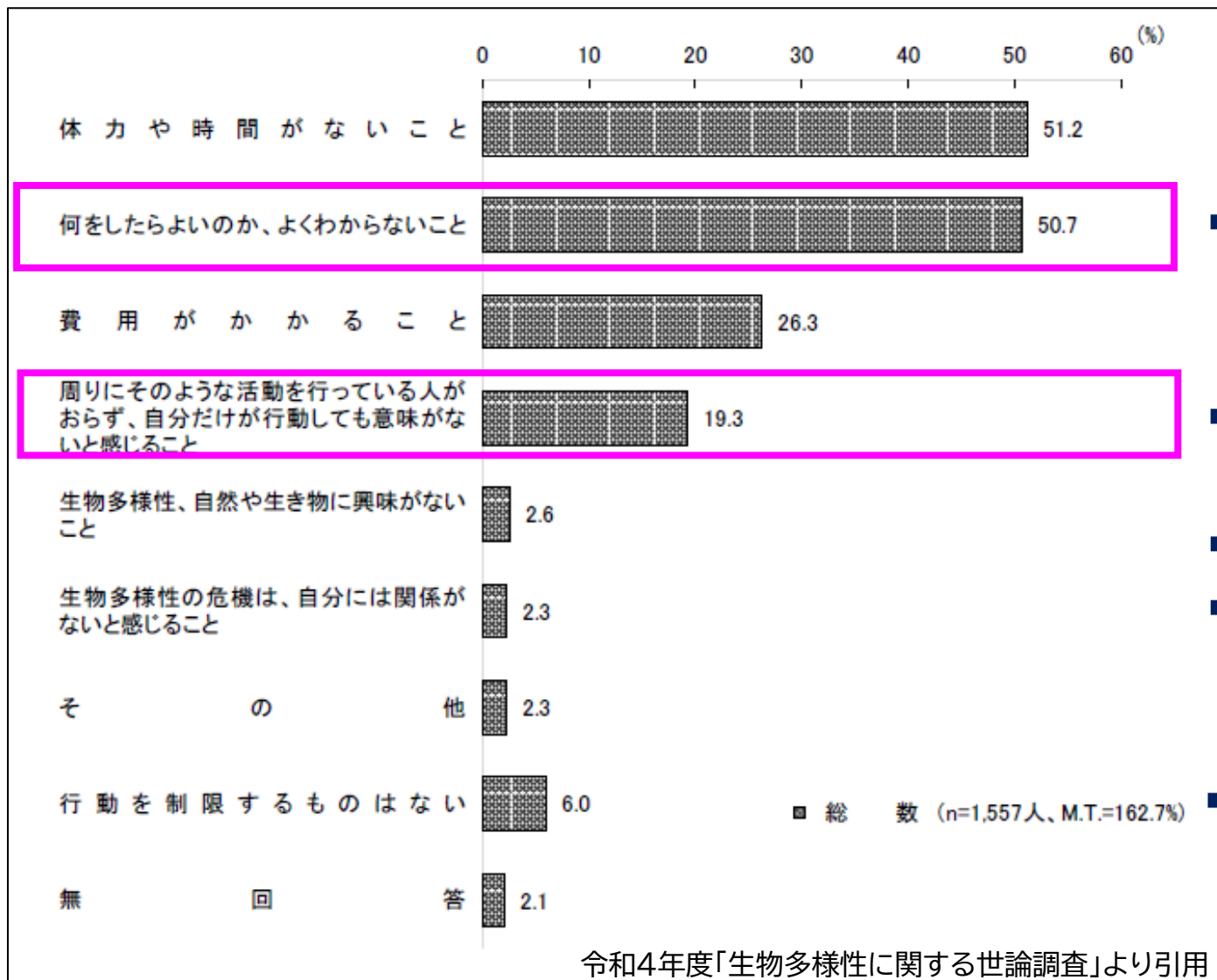
生物多様性保全活動への取り組み状況



何もししていない
40%以上

今日はここを解決したい。

生物多様性保全活動を制限する要因



→ 具体的に何をすればよいかよくわからない
50%

→ 自分だけが行動しても意味がない(無力感)
20%

→ 興味がない(無関心)

→ 自分に関係ない(他人事)

→ 行動を制限するものはない(けどやらない)

11%

今日はここを解決したい。

日本の生物種の特殊性

「海外に行くと珍しい生き物が見られるが、実は日本の生き物は、世界的に見てかなり珍しい。

日本：
約1500万年前に大陸から隔離されたのち、何度も陸地と繋がったり離れたったりした過程で、多様化・固有化。地形や気候も複雑

館展示資料より。一部改変。

	イギリス			日本			ニュージーランド		
	総種数	固有種数	固有率%	総種数	固有種数	固有率%	総種数	固有種数	固有率%
維管束植物	1,623	160	9.9	5,300	1,800	33.9	2,089	1,654	79.1
魚類	315	0	0	3,840	419	10.1	1,010	110	10.9
鳥類	0	0	0.2	542	10	1.8	295	56	18.9
哺乳類	0	0	0	107	48	44.9	3	3	100

イギリス：
氷期に多くが絶滅し、その後、近くから移入。祖先種が少ないうえに隔離期間が短いので多様性・固有率が低い

ニュージーランド：
最も早く大陸が分離し、長期間隔離されたために固有率が高い

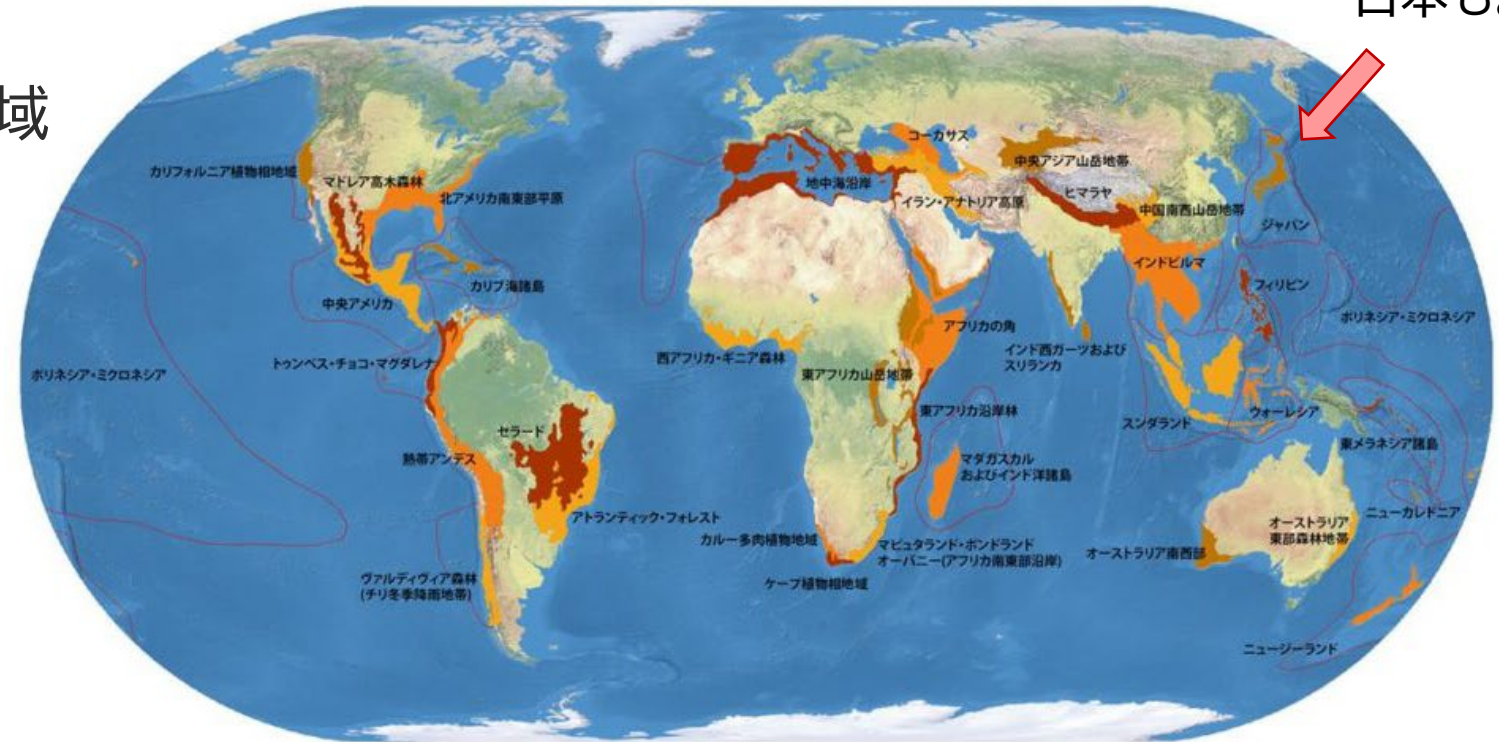
地域の生物多様性は、地史、気候、地形など長い歴史と環境が反映されている貴重な財産！



生物多様性ホットスポット

生物多様性が高いにもかかわらず、人間の活動により危機に瀕している地域

= 保全の優先度が高い



- 維管束植物(植物の中からコケ植物と藻類を除いたグループ)のうち、1,500種が固有種
- 原生的植生のうち70%以上が既に破壊されている

生物多様性ホットスポットマップ
出典: コンサベーション・インターナショナル

この条件を満たすのは**36地域あり**、これらの地域(陸地の2.5%)だけで全世界の植物・鳥類・哺乳類・爬虫類・両生類の**60%**が生息している

生物多様性保全は“生き物好きの道楽”なのか？

生物多様性4つの危機

(生物多様性国家戦略2012-2020で明文化)

人間活動による危機
(開発, 乱獲など)

自然に対する働きかけの縮小
による危機(里地里山の放棄など)

人間により持ち込まれたもの
による危機(侵略的外来種の移入)

地球環境の変化による危機
(気候変動など)

災害の多発
生態系サービスが
機能しない

種の絶滅
生息域の変化や消失

生態系の攪乱
系のバランスの変化

生物多様性「第5の危機」!?



人々の無理解・
無関心・無力感

興味がない

何をしたいのかわからない

国とかがやってくれて
るんでしょ？

自分に関係ある
と思えない

めんどくさいの嫌
我慢するの嫌

自分一人が
何かしても
かわらない

例:自然に対する働きかけの縮小による危機 (第2の危機)

①野生動物との接触

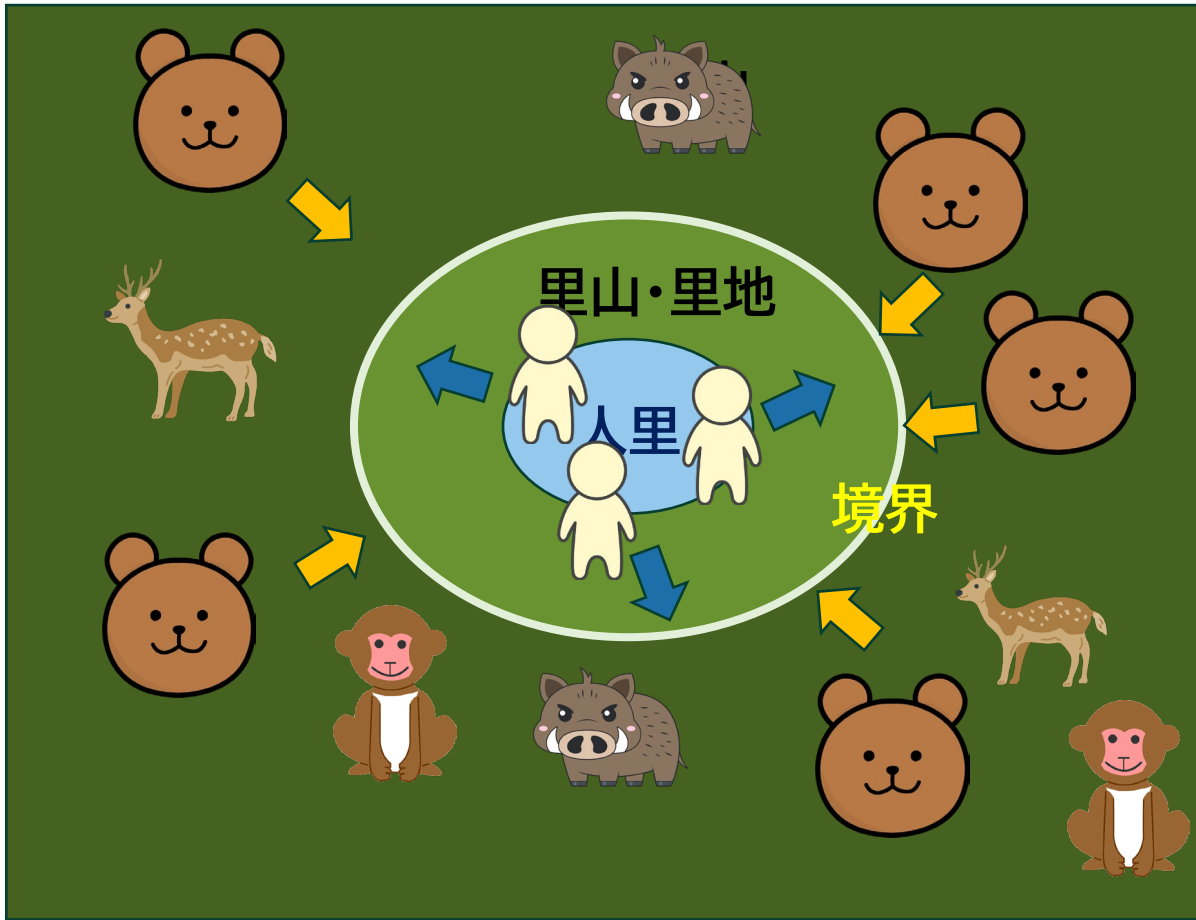
なぜ近年急増？



山の木の実が豊作で、住宅付近に果樹がなければクマとの接触事故は減るのか？

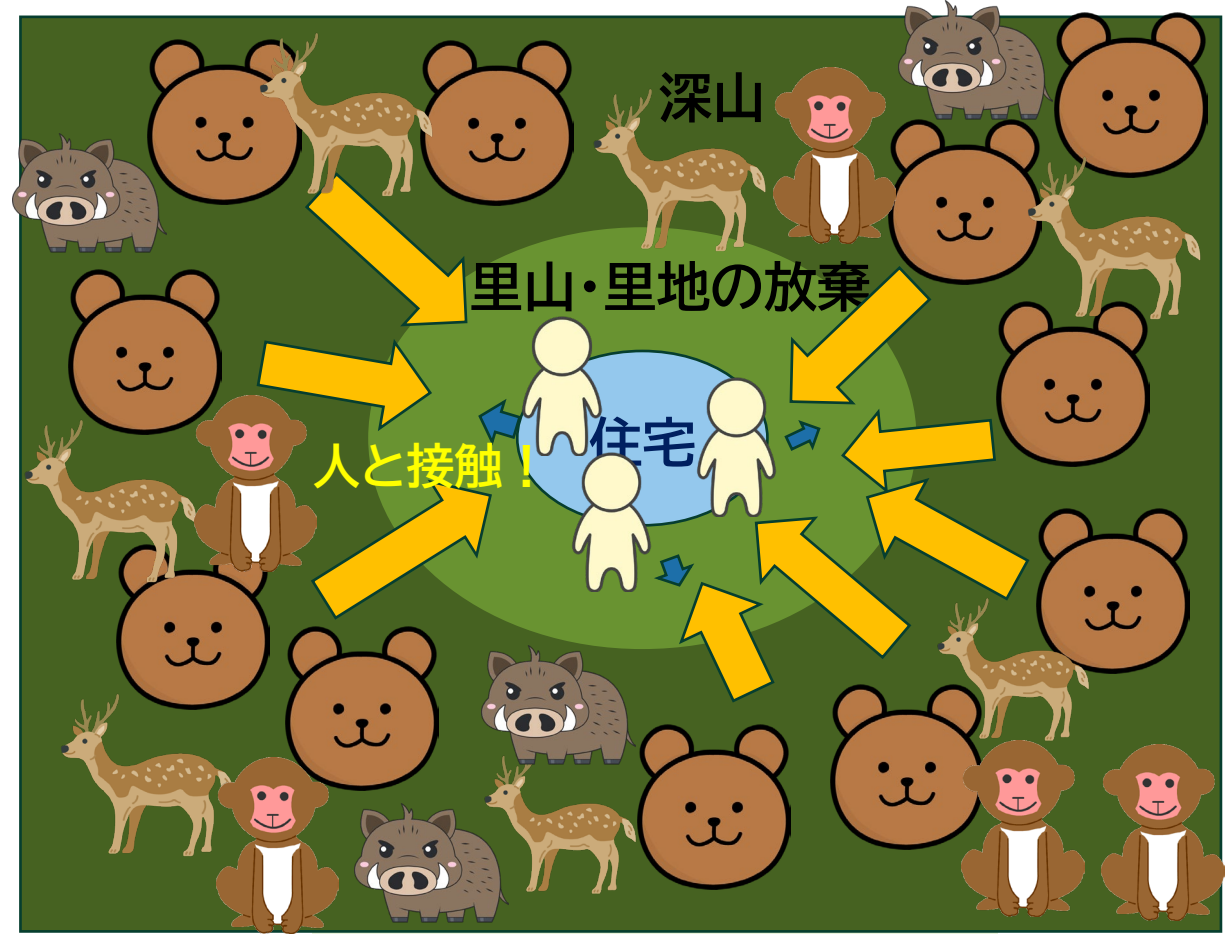


例：自然に対する働きかけの縮小による危機（第2の危機）



里山が利活用されていた頃

人と野生動物の間には、境界が存在した



里山が放棄されてから

里山里地が放棄されると、そこは森になる
人と野生動物の間の境界が機能しなくなった

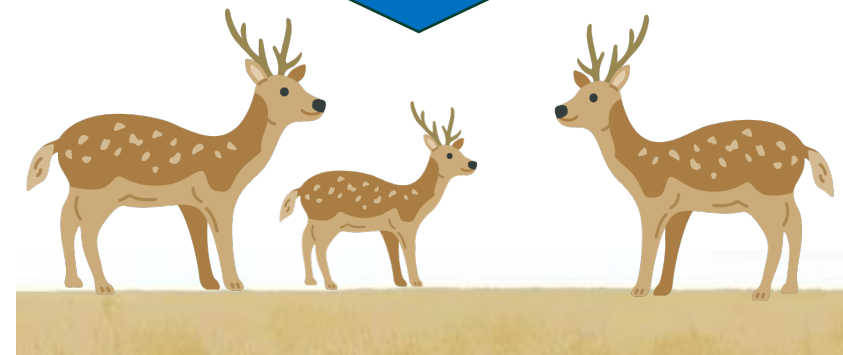
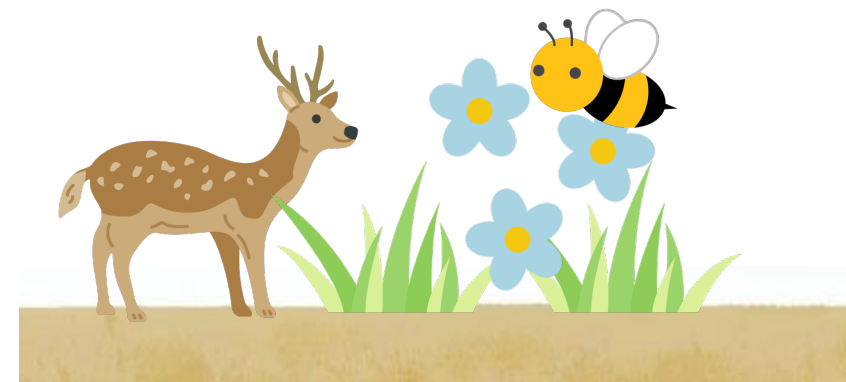
※あくまでも理由の1つです

例：自然に対する働きかけの縮小による危機（第2の危機）

②シカの場合



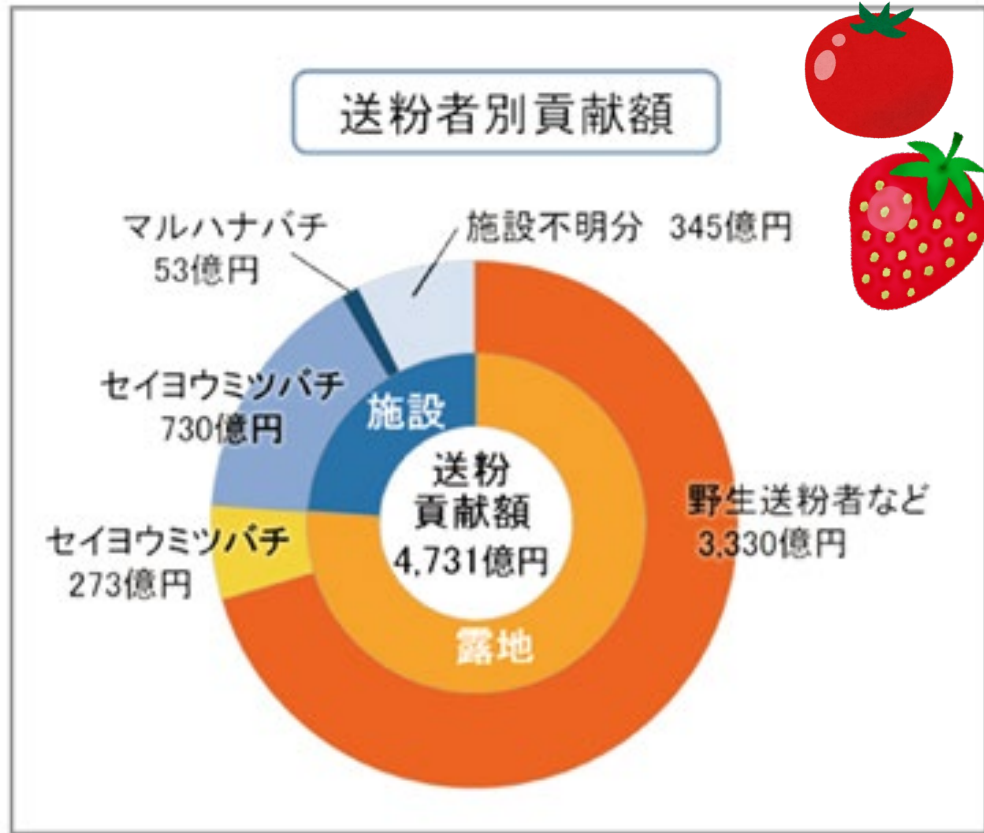
大規模シカ柵内の様子 左 2006年 右 2009年
出典：芦生生物相保全プロジェクト（ABCproject）
ホームページより。撮影者：藤木大介氏



シカ増える
草食べつくす→草を食べて育つ虫消える
花もなくなる→訪花昆虫いなくなる
“虫いなくなる”

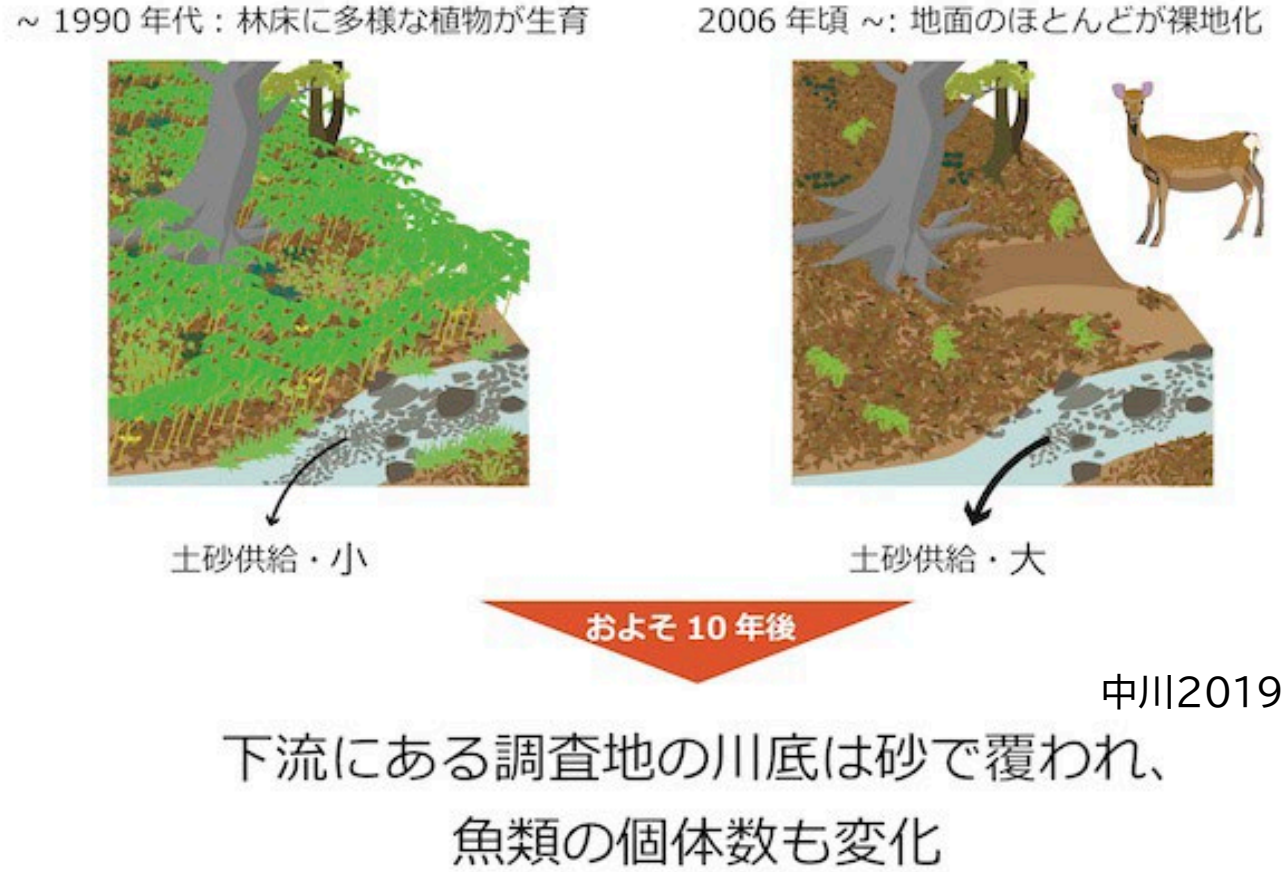
それから？

例：自然に対する働きかけの縮小による危機（第2の危機）



送粉者別貢献額（2013年）
農林水産省「花を訪れる昆虫はなぜ農業に必要か？」

果実が実らなくなる→野菜・果物の高騰
それから？



土砂が流出 → 陸上生態系が回復しない
→ 土砂災害や水不足
→ 魚類の減少, 川から海まで ...それから？

例：自然に対する働きかけの縮小による危機（第2の危機）

天然記念物「ギフチョウ」がシカで絶滅？
なぜ？



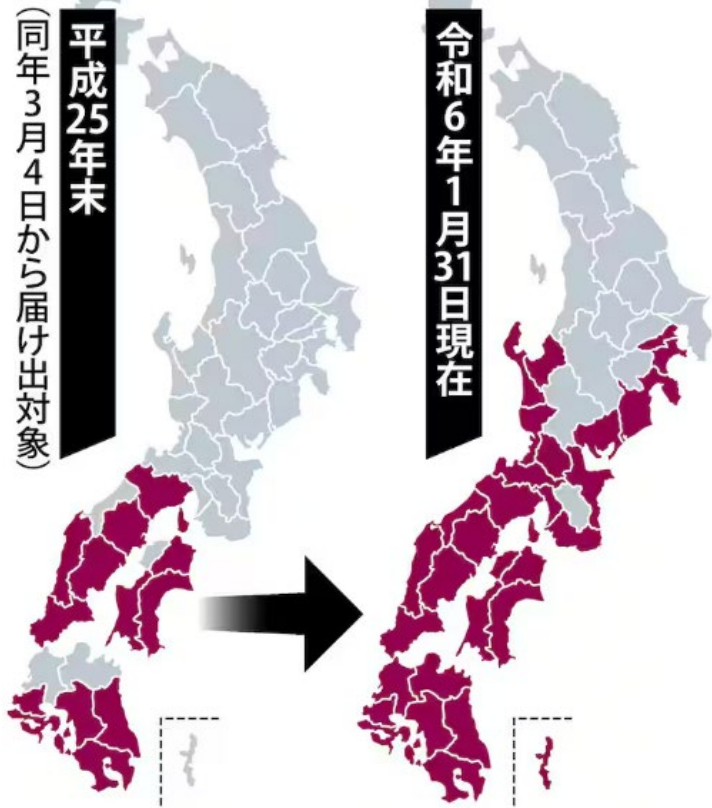
食草カンアオイをシカの食害から守る防鹿柵の設置

シカ増える→草食べつくす
→本来食べなかったものまで食べ始める
→ギフチョウの食草なくなる
→**ギフチョウ地域的絶滅！** ➡ **生物多様性の低下**
それを阻止するための
“地域生態系を丸ごと保全する”取組みが急務

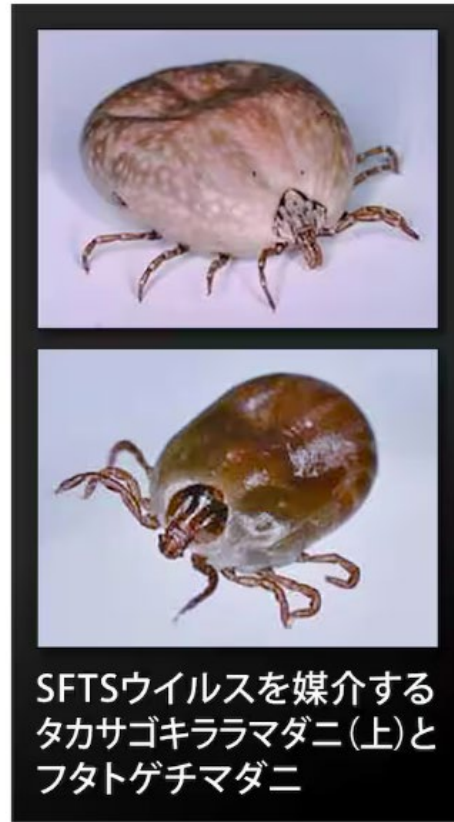
例:自然に対する働きかけの縮小による危機 (第2の危機)

③マダニの場合

SFTSの患者の届け出があった都道府県



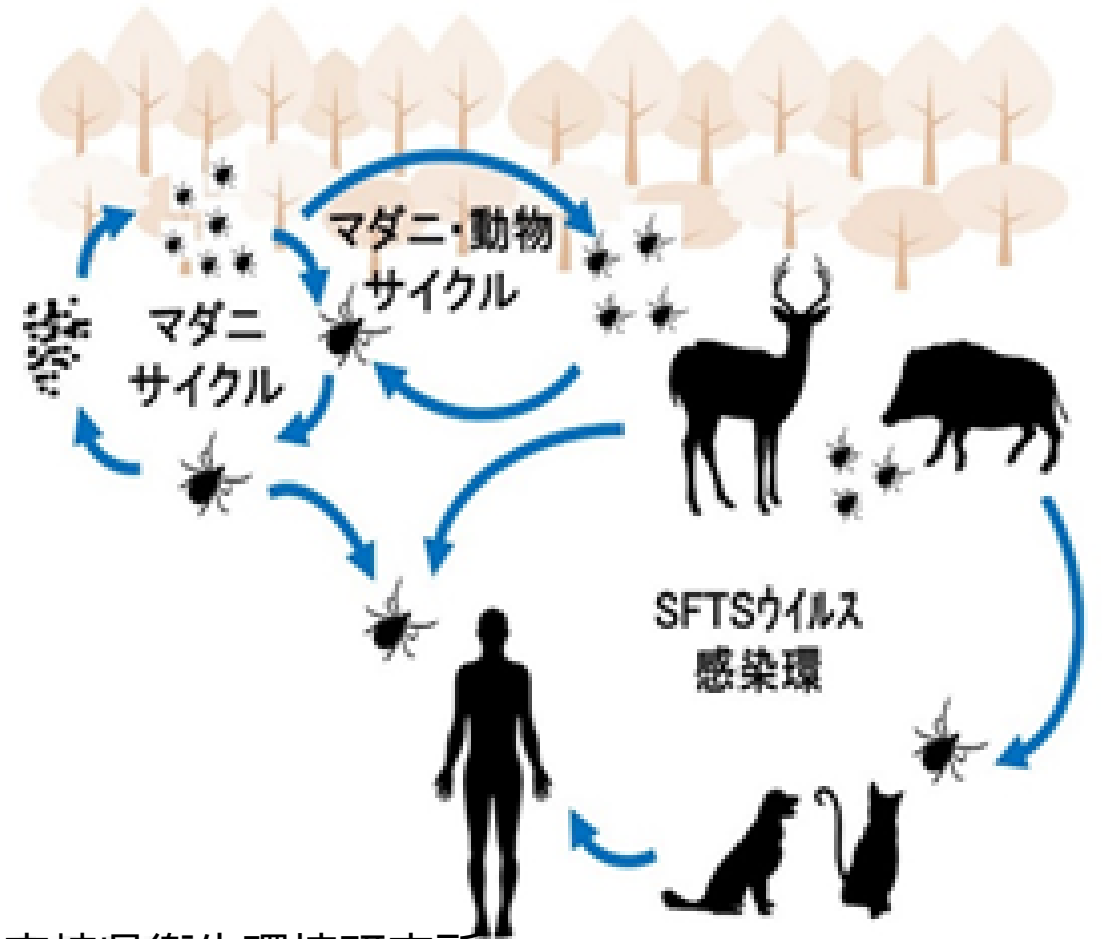
※国立感染症研究所の資料を基に作成



(写真は同研究所提供)

産経新聞

SFTSウイルスの感染環とマダニのサイクル



宮崎県衛生環境研究所

“人間中心に考えた”生物多様性損失の影響

【第1の危機】

森林伐採などの開発行為による
生き物の生息地の減少, 乱獲

→土砂災害, 気温上昇, 水不足,
新規感染症の頻発

【第2の危機】

生活様式や産業構造の変化によ
る里山の放棄, 狩猟の衰退

→野生動物の増加による事故,
農業被害, 土砂災害

【第3の危機】

人やモノの移動に伴う意図的・非
意図的導入

→農業被害, 病原菌の媒介, 停電
断水,

【第4の危機】

気候変動による気温や降水の激
変

→生物の分布や生活史の変化に
伴う結実不全, 季節感喪失

➡生物多様性は生態系だけでなく, 生命, 経済, 衛生環境,
文化にすら関わっている。決してあなたに無関係ではない

ウェルビーイングと生物多様性

➡個人や社会のウェルビーイングを実現するため。

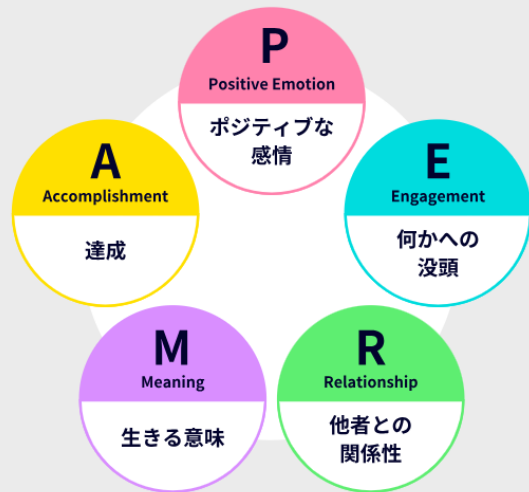
ウェルビーイングとは

よい 状態
well + being

WHOによると、
個人や社会のよい状態という意味。

「Well-being is a positive state experienced
by individuals and societies.」

「PERMA (パーマ)」モデル



ベネッセホールディングスウェブサイトより引用
左:WHO「Health promotion Glossary of terms 2021」より
右:「PERMAモデル」前野隆司・前野マドカ「ウェルビーイング」より



人類の生存基盤である健全な環境が維持される必要がある

2050年ビジョン「自然と共生する世界」に向けて

昆明・モンリオール生物多様性枠組
2050年ビジョン

自然と共生する世界

(a world of living harmony with nature)

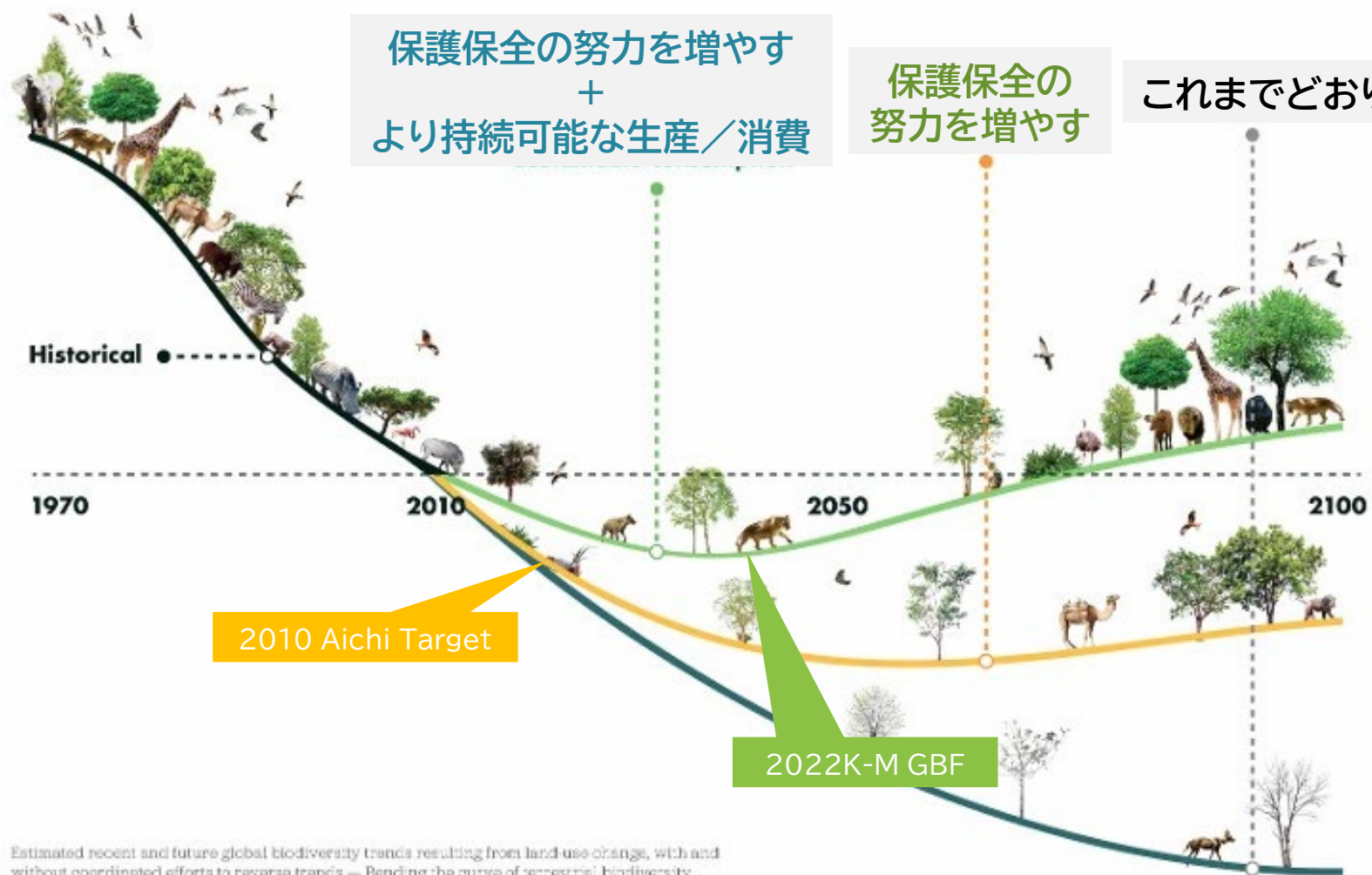
愛知目標から引き継いだ長期目標であり、
我が国で培われた知恵と伝統に基づく考え方



2030年ミッション

自然を回復軌道に乗せるために
生物多様性の損失を止め、
反転させるための緊急の行動をとる

ネイチャーポジティブ（自然再興）の考え方



Estimated recent and future global biodiversity trends resulting from land use change, with and without coordinated efforts to reverse trends — Bending the curve of terrestrial biodiversity needs an integrated strategy. Leclère, et al.

生物多様性国家戦略(2023-2030)

環境省, 2023

第1部 戦略

2050年ビジョン『自然と共生する社会』

2030年に向けた目標：ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現

基本戦略

基本戦略1
生態系の健全性の回復

状態目標（3つ）
・生態系の規模と質の増加
・種レベルでの絶滅リスク低減
・遺伝的多様性の維持

行動目標（6つ）
・30by30
・自然再生
・汚染、外来種対策
・希少種保全
等

状態目標

行動目標

基本戦略2
自然を活用した社会課題の解決（NbS）

状態目標（3つ）
・生態系サービス向上
・気候変動とのシナジー・トレードオフ緩和
・鳥獣被害の緩和

行動目標（5つ）
・自然活用地域づくり
・再生可能エネルギー導入における配慮
・鳥獣との軋轢緩和
等

基本戦略3
ネイチャーポジティブ経済の実現

状態目標（3つ）
・ESG投融資推進
・事業活動による生物多様性への配慮
・持続可能な農林水産業の拡大

行動目標（4つ）
・企業による情報開示等の促進
・技術・サービス支援
・有機農業の推進
等

基本戦略4
生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動

状態目標（3つ）
・価値観形成
・消費活動における配慮
・保全活動への参加

行動目標（5つ）
・環境教育の推進
・ふれあい機会の増加
・行動変容
・食品ロス半減
等

基本戦略5
生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進

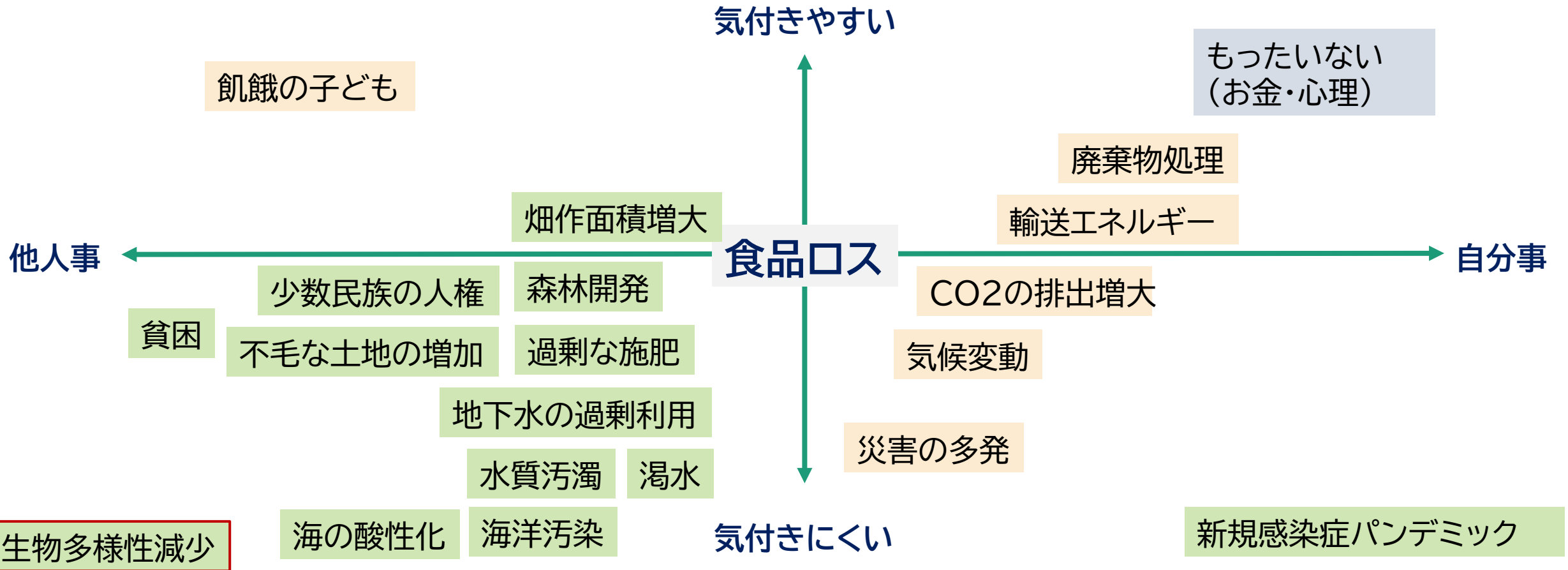
状態目標（3つ）
・データ利活用・様々な主体の連携促進
・資金ギャップの改善
・途上国の能力構築等の推進

行動目標（5つ）
・基礎調査・モニタリング
・データ・ツールの提供
・計画策定支援
・国際協力
等

ステークホルダーは誰か？



結局、食品ロスは何が問題なのか？



=更なる気候変動, 災害の多発, 資源の枯渇, 貧困に直結

どのSDGsが関係する？

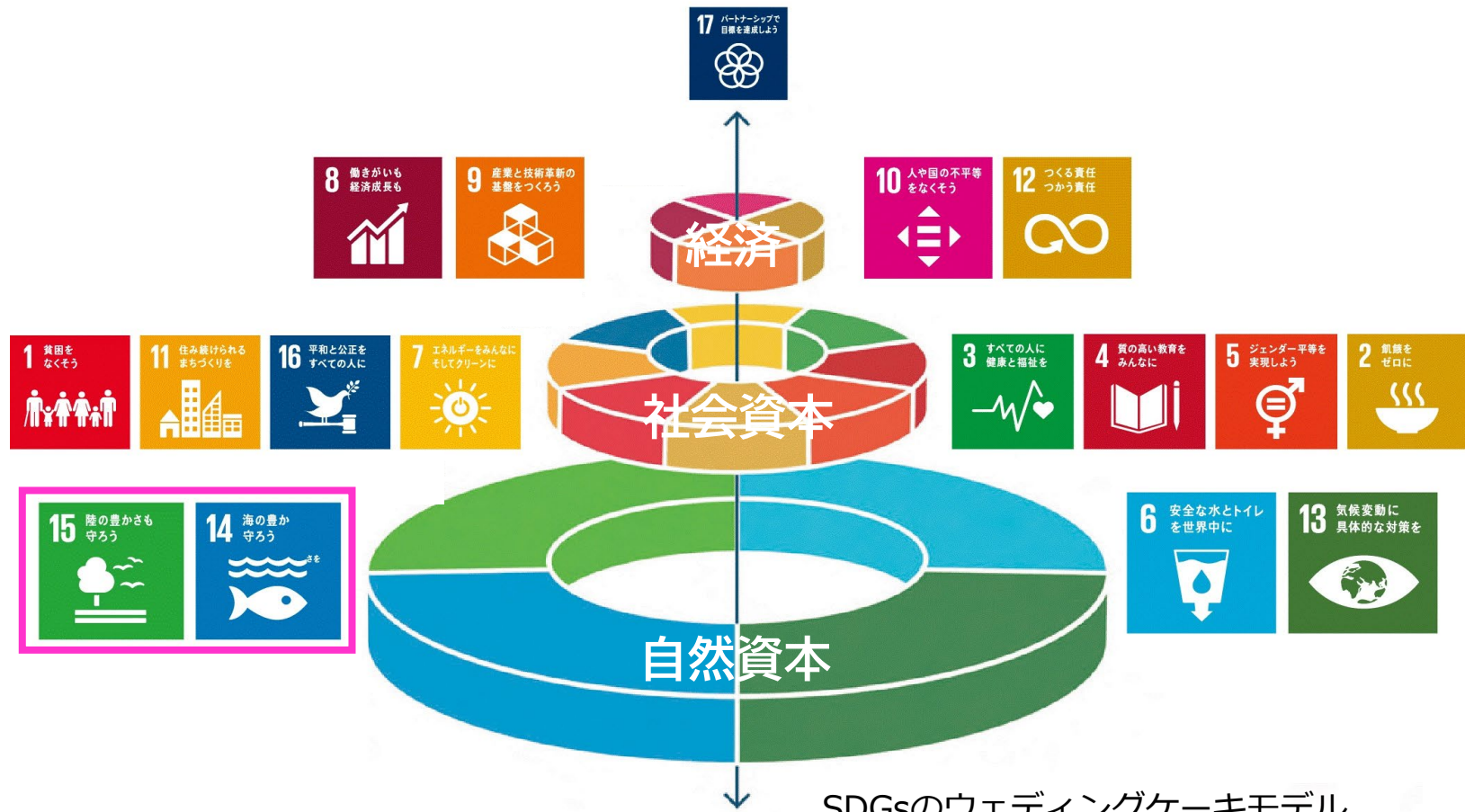
直接的に見えない部分が多い
物事をつなげて考える



自然資本に関連することは気づきにくい！

自然資本は社会の基盤

国連開発計画総裁:「生物多様性は地球上の人間の生活と相互に関連し絡み合っており、切り離すことはできない。私たちの社会と経済は健全で機能する生態系によって成り立っている。**生物多様性なくして持続可能な開発はない。生物多様性なくして、安定した気候はあり得ない。**」



SDGsのウェディングケーキモデル
(Stockholm Resilience Center, 2016)

持続可能な未来のためには？

- ➡自然資本を維持・強化する
- ➡そのために「社会の中の自分」の立場でやるべきことは？

30 by 30と自然共生サイト

30 by 30

2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする世界目標

→生物の絶滅リスクが3割減(Shiono *et al.*,2021)

OECD=保護地域以外で生物多様性保全に資する地域
(**O**ther **E**ffective area-based **C**onservation **M**easures)

- 日本政府は「自然共生サイト」として運用
- 30 by 30達成には保護地域以外のOECD(自然共生サイト)の登録が不可欠

【自然共生サイトの主な役割】

- 「30by30」目標の達成, ネイチャーポジティブの推進
- 多様な場所の保全: 企業の森、ビオトープ、社寺林、ゴルフ場、都市公園など、民間の管理地を幅広く対象とし、生物多様性を守る
- 地域・企業価値の向上: 自然共生サイトとしての価値向上を通じ、ESG投資や環境・社会貢献活動への参画を促進する

敷地面積全体の約44%を
緑地が占める

緑地区分		凡例	
学術的区分範囲	保全林	古くからの照葉樹林、深い森	A
	里山	環境保全林 (統合移転後の新しい樹林)	B
	並木	コナラなどの雑木林	C
	草地	構内通路、建物周辺の環境保全林 (図は例)	D
		ススキ草地 (里山の背の高い草地)	E
		トダシバなどの背の低い草地 (里山の背の低い草地)	F
管理的区分範囲	機能維持	キャンパス外周部	
		建物周囲、構内道路沿いの樹木	
	環境整備	芝生広場	I
		アプローチ広場	II



地域の自然: 照葉樹による自然再興

ふるさとの木によるふるさとの森づくり (混植・密植方式, 宮脇昭名誉教授)

潜在自然植生に相当する多くの樹種を高密度で混植する森づくり第1号の森
「速い・強い・メンテナンスフリー」

レクリエーションの場, 防減災, 気候緩和, 希少種のレフュージアとして機能



区分Bの環境保全林. 左: 1978年 (鈴木邦雄氏撮影), 右 2024年 同じ場所から撮影.



ゴルフ場(~1968)から森を創成



1978年頃



タブノキ
野山の花たち

価値 (4) 生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

価値 (6) 希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

区分Aおよび区分Cにおいて、環境省レッドリストや神奈川県レッドデータブック生物調査報告書(2019)において掲載されている絶滅危惧種や希少種を確認した。

本学の敷地面積全体の約44%を緑地が占める。大規模な植生調査が数回行われ(藤原(2001)<https://x.gd/e4gtF>)、緑地には多くの希少植物が生き残っている。

【主な植生】

シイ・カシ林、エノキ群落、アズマネザサ群落、ススキ群落、マダケ林、クスノキ・アラカシ植生(2019年11月調査)

【植物】植物300種

アラカシ, シラカシ, スダジイ, アカガシ, クスノキ, ヒノキ, クロジ, ヤブツバキ, サザンカ, モッコク, チャノキ, アジサイ, シャリンバイ, サンショウ, マンリョウ, ムラサキシキブ, ヤマズエンドウ, カスマグサ, サギゴケ, カタバミ, ヘビイチゴ, ヒキ, カラスウリ, ヤブガラシ, コヒルガオ, タケニグサ, ヒメススキ, ヤブミョウガ, サネカズラ, センニンソウ, ガガイモ, アオツツフノシ, ツルワメセド, ツワブキ, ハリガネワラビなど

【動物】哺乳類7, 鳥類29, 他脊椎動物5, 節足62, 陸産貝類2種

アズマモグラ, アカネズミ, タヌキ, ニホンヤモリ, ニホントカゲ, ヒヨドリ, カワセミ, コゲラ, キビタキ, ハクセキレイ, チョウ目, 甲虫目, ハチ目, クモ類, ムカデ類など



タヌキも子育て



地域とのつながり



啓蟄むしむし大作戦



種子模型を飛ばそう



外来種でモビールをつくろう



葉っぱかるたで遊ぼう



竹林整備

横浜国立大学・横浜市
よこはま森の楽校
第3回 さとやま
里山ESD BASE
横国の森ワークショップ祭
里山で考える未来

開催 10/27(日) 10:00~16:00
(受付 9:30~)

里山におけるくらしや生き物とのつながりを感じられる
いろいろなワークショップを行います。
見て回って、興味のあることに参加しよう!

申込期間 (2024年9月24日~10月8日)
定員を超えたお申し込みがあった場合は、ワークショップごとに抽選を
行います。抽選後10月10日までに参加の可否をお知らせします。

開催日: 2024年10月27日(日)
開催地: 〒240-0201
神奈川県横浜市磯子区宮前町79-2横浜国立大学
教育学部 美術科 さとやまの森(裏山)前庭前
お問い合わせ: satoyama.esd.base@gmail.com

主催 | 横浜国立大学 里山ESD研究拠点(ESD研究センター) 美術科(環境・文化) 環境文化の創造と実践研究センター
協賛 | 環境文化の創造と実践研究センター「里山ESD研究拠点」事務局(ESD) 環境文化の創造と実践研究センター

YNU ESD 環境文化の創造と実践研究センター



食べられる植物探し

Pre 横国 里山芸術祭

大学内にある里山の姿を創造する

- ・インスタレーション表現による環境創造への気づき
- ・竹林を整備、竹を加工することの難しさと達成感

参加メンバー: 美術科3・4年生18名

条件: 環境を整備していく中で入手した素材のみ表現



道具を使ってみよう



植物の“今”を後世に残そう

持続可能な社会に向けて参画できる人を増やす

About:環境について学ぶ
環境や自然と人間とのかかわり,さらには環境問題と社会経済システムの在り方や生活様式とのかかわりについて理解を深める

In:環境のなかで学ぶ
豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して,自然に対して豊かな感受性や環境に対する関心等を培う

自分事化

参画

世界目標
自然と共生する
世界

知識を蓄積・探究

For:環境のために学ぶ
環境保全や環境の創造を具体的に実践する態度を身に着ける

社会的課題・地球規模の課題に対応する

感じる・気づく

学校教育

企業研修

目の前の問題を解決する

幼児

児童

生徒

学生

成人

社会教育としての生物多様性教育(博物館や地域) 0-99+

生涯学習

生物多様性に気づき, 親しみ, 楽しむこと

企業実践の可能性

「会社」の中の人として
「社会」の中の人として

この先の何か

なるほど!
楽しい!

具体的作業

・放棄水田(谷津)の整備
・外来種駆除
・アシの刈り取り

・インセクトハウスの
作成と設置

関連知識

外来種に関する課題
湿地の遷移
グリーンインフラ

里山における生物多様性と
自然共生社会
生物地理, 地史的変遷



業種に関連する活動に, 単なる作業にしない
環境学習を取り入れる
生活基盤である以上, どんな職種であっても
なにかしら生物多様性に関連するはず

→その「気づき」をつくる
→「For」段階へのきっかけ

旅行に行くのは好きですか？なぜ好きなのですか？

地域の文化が時間軸でつながっていく
それが歴史

景観



食べ物



祭



暮らし



世界中どこに行っても同じなら、旅行の楽しみはなくなりませんか？
その〇〇, なにから生まれたものですか？

今日、生物以外のものを食べた人？



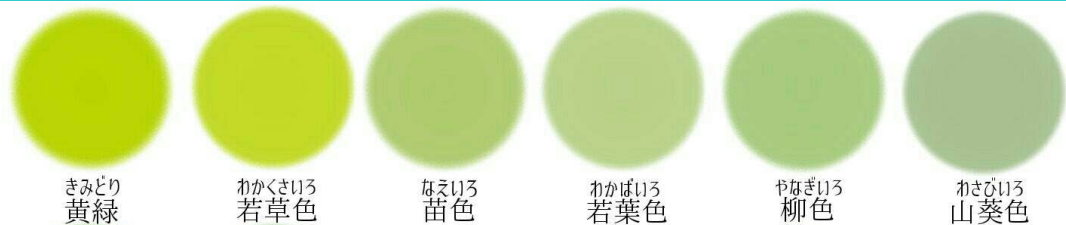
どっちがたのしい？



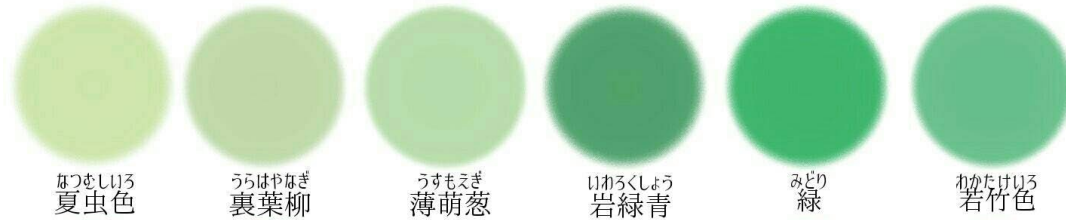
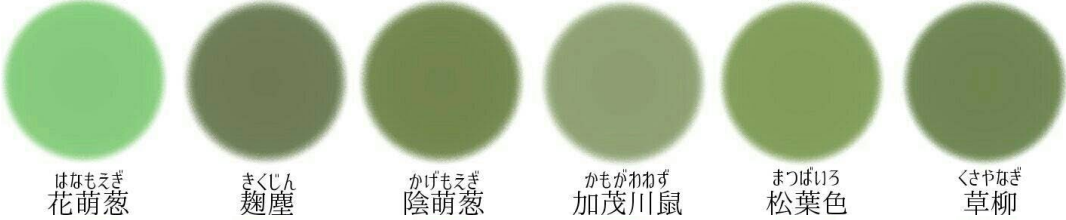
- 生物を食べていた！という意外性
- 多様である＝選ぶ楽しみ
- おなかと同時に心も満たされている

➡文化的に満たされるという例であると同時に、実際に生物多様性がなくなったらどうなるか考える材料として有効

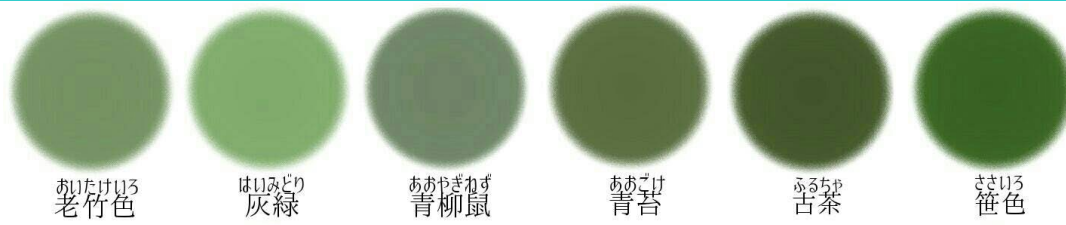
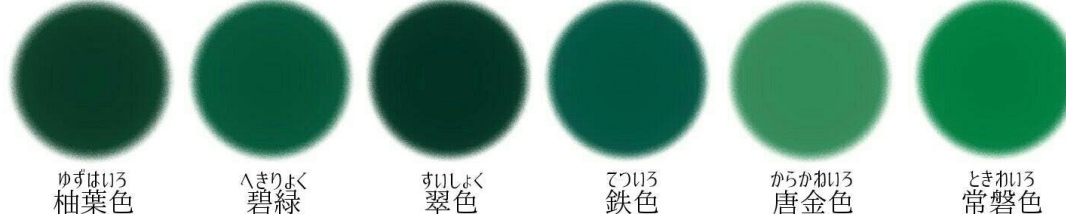
色々な緑…種類の多様性と、名前に着目



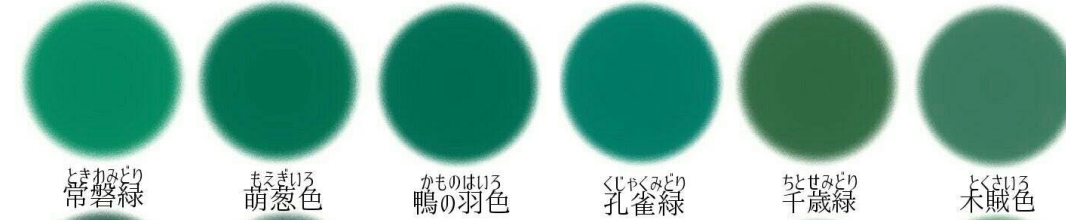
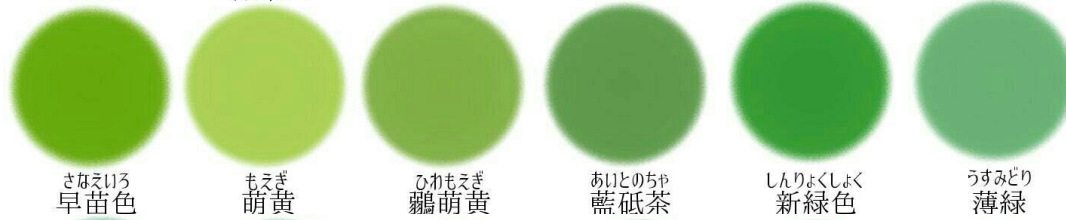
色々な緑①



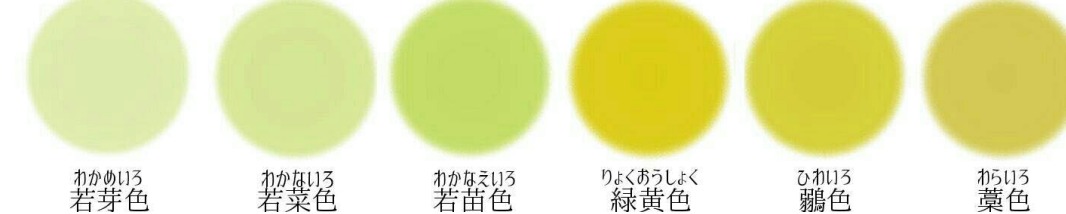
色々な緑③



色々な緑②



色々な緑④



森の“みどり” …何色ある？



意外とおもしろい, 植物の呼び名。



時代背景
どんな形か
どこに生えるか
どのように活用していたか

ほかにも地名とか, 祭に使う植物とか, 伝統薬とか

【熊本県】
ごいしんそう
さいごうぐさ
しゅうせんばな
せんそうぐさ
あかんべー
...

【長野県】
ひりょうぐさ
しょうわぐさ
めいじぐさ
せんろそう
てつどうぐさ
ぽっぽぐさ
たったらぼーし

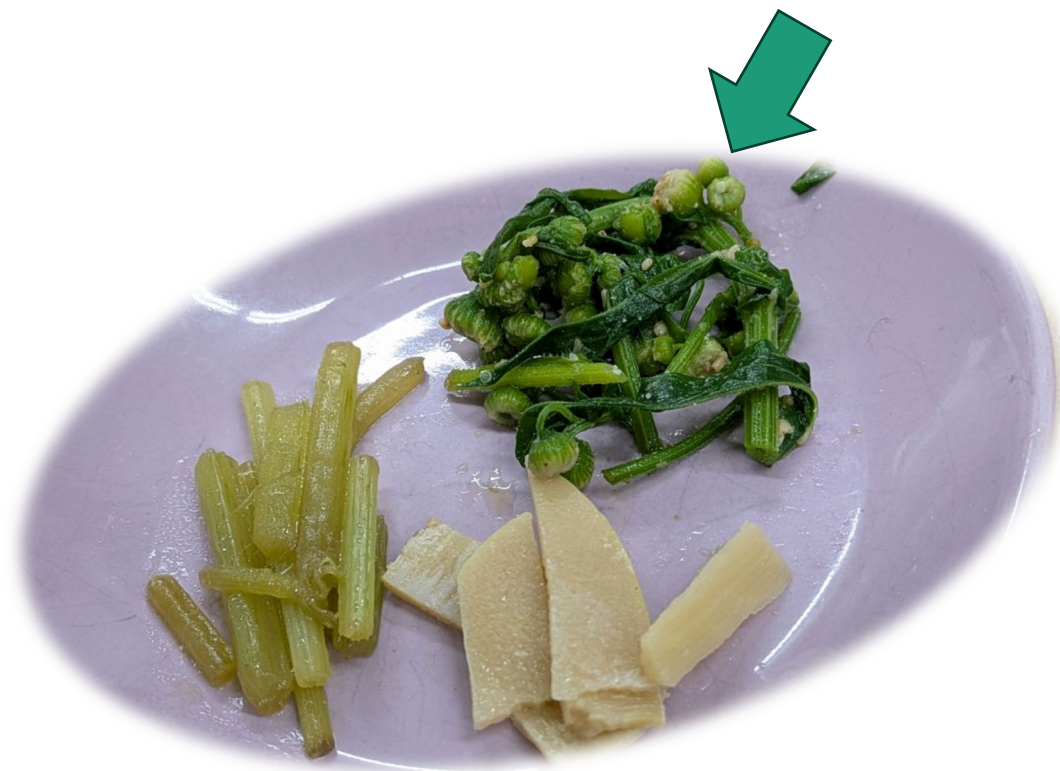
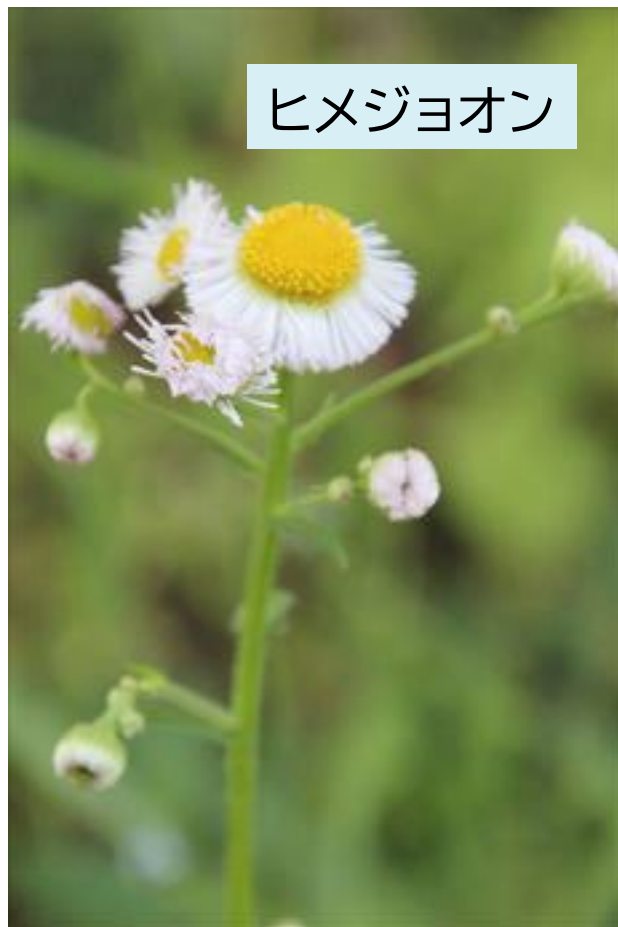


【茨城県】
あれくさ
びんぼうぐさ
へいたいぐさ
めいじそう

【千葉県】
びんぼうぐさ
てつどうぐさ
かいこんぐさ
げーろっぱ
てんじょうぐさ

【群馬県】
びんぼうぐさ
でんきぐさ
どろぼうぐさ
まきたろうぐさ
くびちよんぱ

見分けられますか？



生物文化多様性

ある土地の生物多様性と、その恩恵を受けてきた地域住民の土着の文化のもつ行動様式によって、生物多様性が維持されてきた相互作用

文化・慣習は生物多様性の特定の要素に依拠して存在し、発現する

生物多様性

- ・生き物のつながり
- ・遺伝的多様性
- ・種の多様性
- ・生態系の多様性

生物文化多様性 Biocultural diversity

UNESCO-SCBD Programme

文化多様性

- ・知識と慣習の多様性
- ・共生の在り方の多様性
- ・価値観と信仰の多様性
- ・言語の多様性
- ・芸術的表現の多様性

生物多様性の全体が、文化で結びついた集団により活用され、維持管理されている



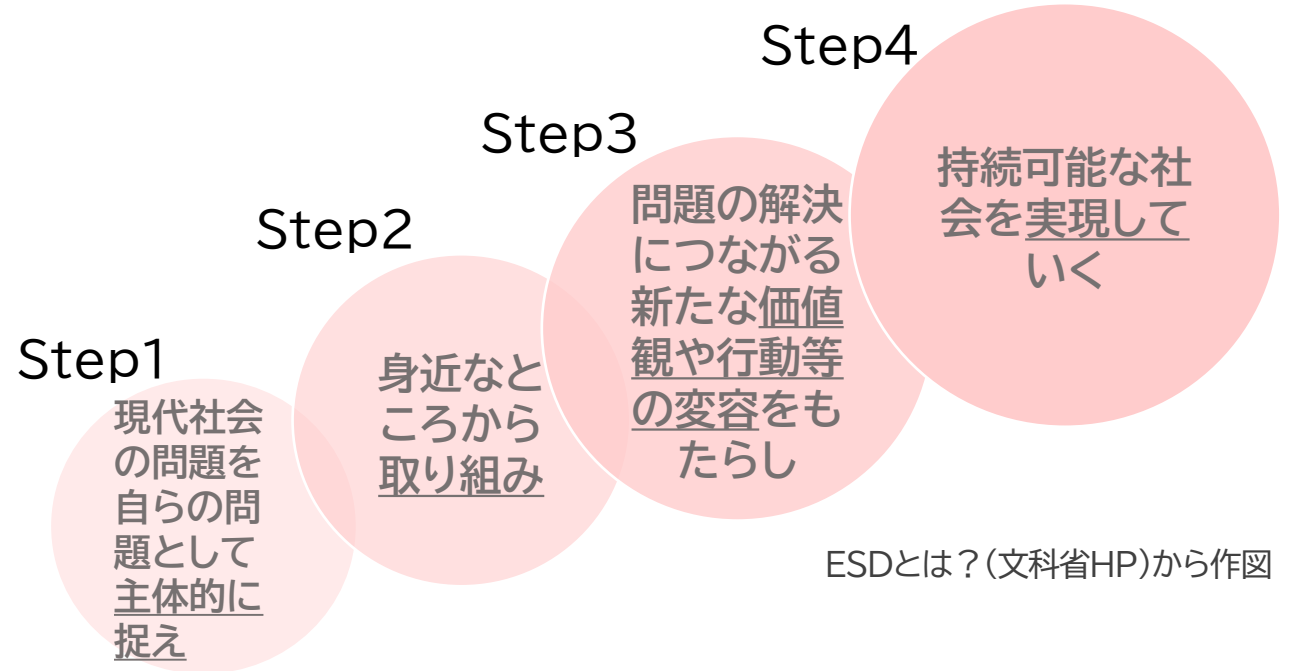
田んぼの生態系



稲作

人間の文化活動も含んだ地域固有の生物文化多様性を丸ごと理解する

持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development)



ESDとは?(文科省HP)から作図

【意義・目的】

- ・個人の態度や行動を変える
- ・持続可能な暮らしに向けて自らの道筋を決定できる能力を育成していく

【ESDの3つの公平】

- ・世代内の公平
- ・世代間の公平
- ・種間の公平

生態的持続可能性

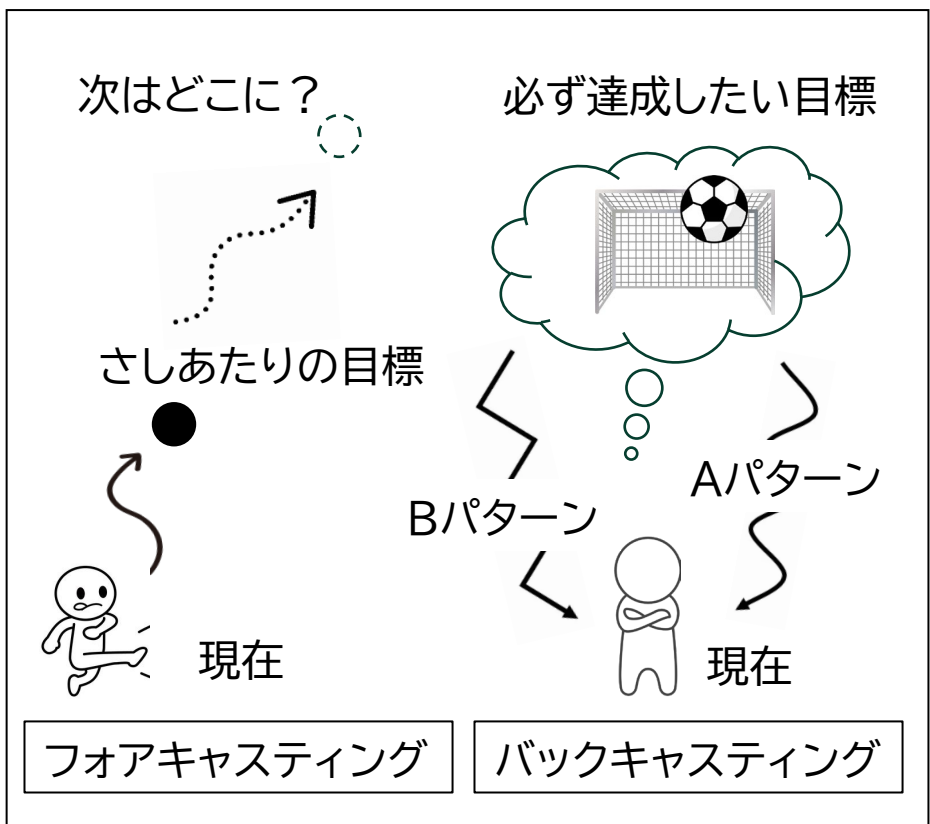
物質・エネルギーの循環
生物多様性の保全 など

社会的持続可能性

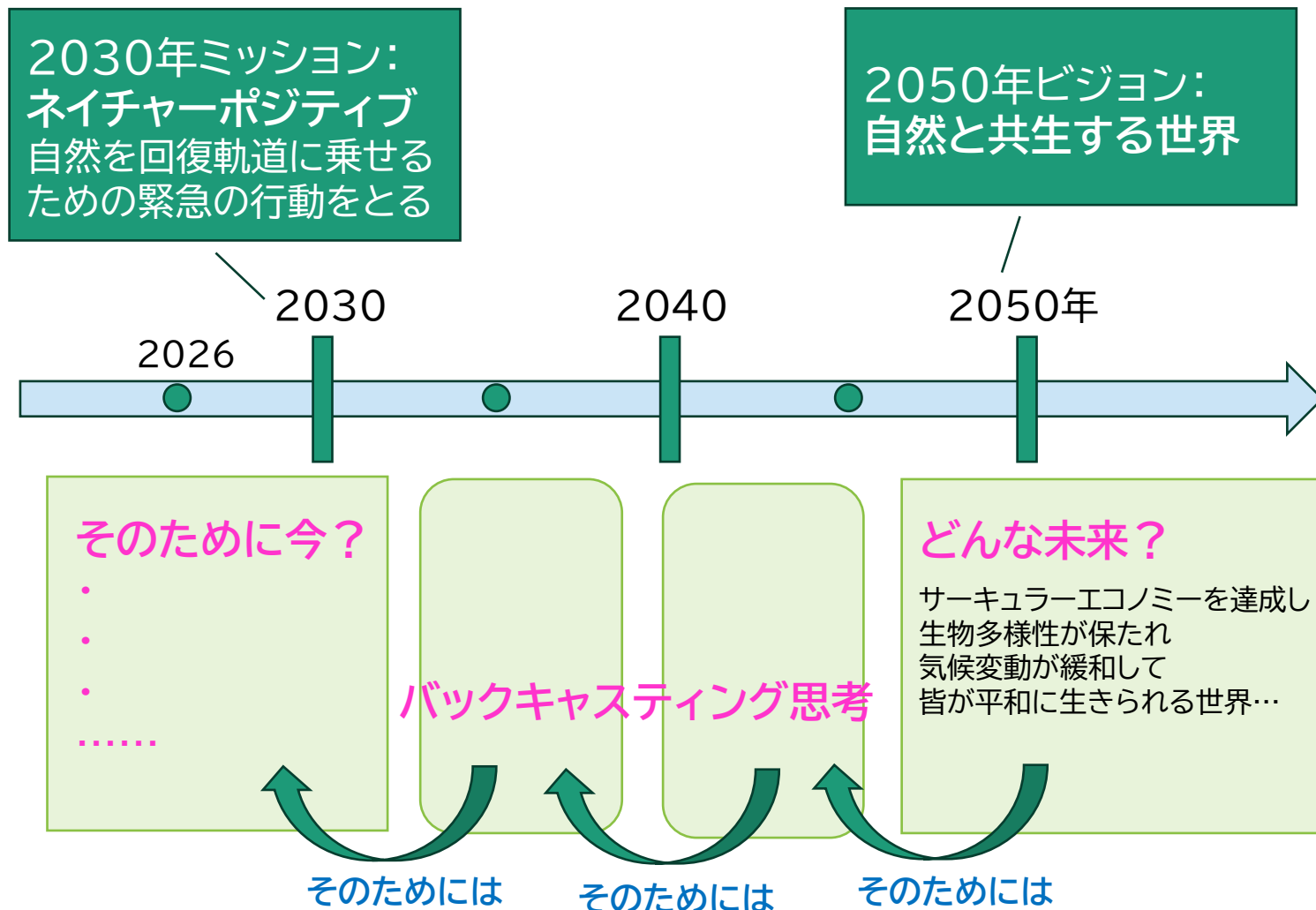
人権や平和, 福祉,
民主主義 など

持続可能な社会

「なりたい未来(The future what we want)」から 「今の行動」を考える



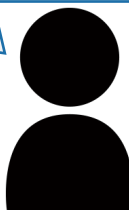
フォアキャストिंगとバックキャストिंगの考え方、
能條(2017)を改変



やっぱり根本的な解決は…

阿部健一氏(総合地球環境学研究所・教授)

「生物多様性の大切さは、本を読むより、人の話を聞くより、**まずは自然の中で生き物を見て、その素晴らしさを感じる**ことが大事である。頭の中で理解するものではない。」



**本質的な生物多様性への理解と親しみ、
楽しみによる、主体的な行動の促進**

自然など、自分が目にしたものや触れたものに神秘さや不思議さを感じ、驚いたり感動したりする感性のこと。



センス・オブ・ワンダー